

令和5年度公共事業 再評価諮問箇所個別資料

河川砂防課 広域河川改修事業等 9件

1 公共事業再評価諮問箇所一覧表、B/C の考え方

P1～

2 個別事業箇所資料

- ・ 公共事業再評価諮問箇所「継続」理由書等
- ・ 再評価対象事業箇所調書
- ・ 個別箇所説明資料

① 広域河川改修事業（佐賀江川） P3～

② 広域河川改修事業（本庄江） P21～

③	総合流域防災事業（牛津江川）	P 3 1 ～
④	広域河川改修事業（田手川）	P 4 1 ～
⑤	広域河川改修事業（寒水川）	P 5 3 ～
⑥	広域河川改修事業（切通川）	P 6 3 ～
⑦	総合流域防災事業（佐志川）	P 7 3 ～
⑧	総合流域防災事業（川添川）	P 8 3 ～
⑨	総合流域防災事業（浜川）	P 9 3 ～

令和5年度公共事業再評価諮問箇所一覧表

河川砂防課

令和5年度公共事業再評価諮問箇所一覧表

No.	事業名	事業箇所 (地区名)	事業年度 (上段：前回) (下段：今回)	進捗率 (上段：前回) (下段：今回)	対応方針
1	広域河川改修事業	佐賀江川	S48～R5 S48～R20	86% 88%	継続
2	広域河川改修事業	本庄江	S52～R10 S52～R20	92% 84%	継続
3	総合流域防災事業	牛津江川	S40～R10 S40～R15	83%	継続
4	広域河川改修事業	田手川	S41～R15	78% 72%	継続
5	広域河川改修事業	寒水川	S54～R15	76% 81%	継続
6	広域河川改修事業	切通川	S50～R15	85% 87%	継続
7	総合流域防災事業	佐志川	S58～R5 S58～R15	87% 71%	継続
8	総合流域防災事業	浜川	S56～R14	63% 73%	継続
9	総合流域防災事業	川添川	S54～R6 S54～R11	87% 88%	継続

河川改修事業のB/Cの考え方

総便益B：治水施設整備によってもたらされる総便益額（被害軽減額）

- ・一般資産被害（家屋、家庭用品、事業所資産、農漁家資産）
- ・農作物被害（水稻、畑作物）
- ・公共土木施設等被害（道路、橋梁、農地、農業用施設等）
- ・間接被害（事業所の営業停止被害、応急対策被害等）
- ・残存価値

総費用C：治水施設の整備及び維持管理に要する費用

建設費、維持管理費（※事業完了後50年間）

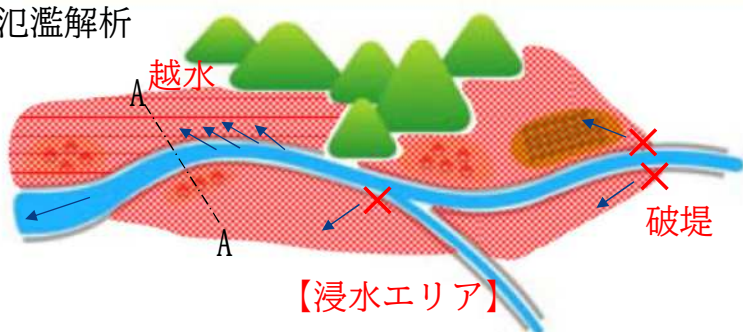
～Bの算出～

①河川改修を行わなかった場合に起こり得る浸水被害を氾濫解析にて再現する。

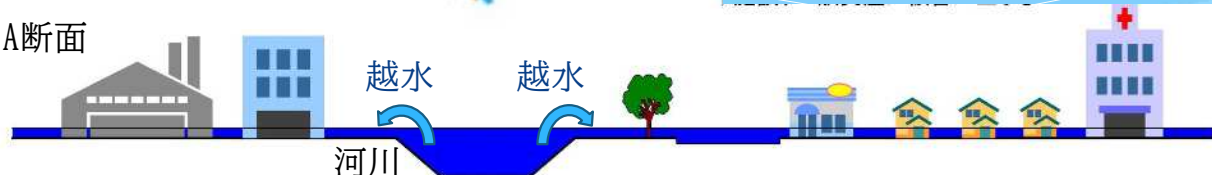
②氾濫解析により得られた、浸水区域における被害額を算出する。

③上記の被害額については、河川改修により軽減されるものなので、これを便益（B）とする。

氾濫解析



A-A断面



治水経済調査マニュアル（案）の改定

令和2年4月に治水経済調査マニュアル（案）が改定。

※前回改定は平成17年4月

マニュアル改定のポイント

①近年の水害データをもとに被害率等を更新

②近年の水害被害実態に基づくより確からしい算定方法への見直し
（公共土木施設等被害の内、農地・農業用施設等被害の算定方法を変更）

③新たな便益項目の追加（水害廃棄物の処理費用）

④これまでの事業評価の実績等に基づく捕捉
 （氾濫計算のメッシュサイズ、デフレータ、消費税の取り扱い、巻末様式など．．．）

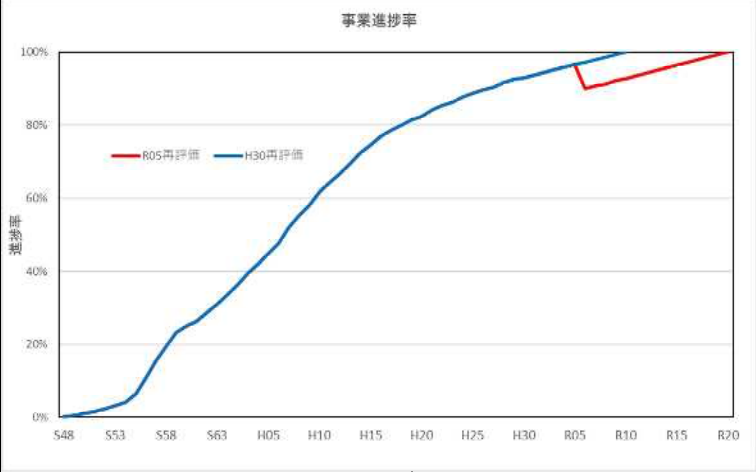
⑤その他、用語・出典の陳腐化や誤字・脱字等の軽微な修正

令和５年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名：河川砂防課)

事業名 (路河川等名)	河川整備交付金事業（広域河川改修事業） （佐賀江川（佐賀江川・新川・八田江・巨勢川・中池江川・巨勢川上流・黒川・焼原川・金立川））
継続・中止理由	○ 佐賀江川は佐賀市東部を流下する河川で、佐賀市中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび浸水被害が発生している。本事業は、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。 ○ 費用対効果についても、$B/C=1.0$ 以上（6.8）確保されている事業である。 ○ 事業進捗率は、事業費ベースで約 88% [508 億/576 億]（R4 末時点）であり、用地進捗率は約 98%となっている。 ○ 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化がなく、流域の大半が低平地であるため、事業の必要性は依然として高い。 ○ よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。
B／Cの 算出方法	総便益（B）は河川改修による年平均被害軽減額を対象期間分合計したもの。 総費用（C）は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分合計したもの。 （※対象期間＝整備期間＋施設完成後 50 年間。） 総便益額（現在価値化した総便益） $B = 1,776,110$ 百万円 総費用額（現在価値化した総費用） $C = 259,521$ 百万円 $B/C = 1,776,110 / 259,521 = 6.8$
備考	

令和 5 年度再評価対象箇所
(対象：平成 3 0 年度再評価実施箇所)
(再評価実施後、一定期間（5年）が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果 の要因の変化	コスト削減や代替案 等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業観)
	再評価 時点 H30	佐賀江川 (佐賀江川・新 川・八田江・巨勢 川・中池江川・巨 勢川上流・黒川・ 焼原川・金立 川) 河川整備交付金 事業（広域河川 改修事業事業）	流路是正、狭窄部解消を 行い、治水安全度を向上 し、流域の浸水被害の軽 減及び排水機場建設に より内水対策を図る。 計画流量 240m3/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=536億円 工 期：S48～H40 (R10) 改 修 延 長：L=42,740m 計 画 流 量：240m ³ /s 計画治水安全度：1/50 事業内容： 掘削・築堤、護岸 樋管72基、橋梁60基 堰18基	佐賀江川工区及び新川工区、八田 江工区、巨勢川工区、黒川工区は 概ね完成している。 巨勢川上流工区は、金立川合流点 まではほぼ概成しており、以後は 上流部の暫定区間の整備促進を図 る。 中池江川工区は姉川橋(国道34号) まで完成している。 焼原川工区は、狭窄部の掘削・護 岸整備を行っている。 (H29末進捗率 86%) (年平均進捗率 1.9%)	(過去の災害実績) H21.7 浸水戸数 39戸 浸水面積59ha (地域の状況) 平成20年度に巨勢川調整 池(直轄事業)が完成した。 兵庫北土地区画整理事業 などにより、宅地や事業所 等の増加が見られる。	最新のマニ ュアルに基 づき、費用対効 果を算出し た。 (B/C)=5.2	・再生材の積極的 利用 ・建設副産物の有 効利用	再評価実施後 5 年が経過	平成2年洪水被 害を軽減する ため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。
	現時点 R5	佐賀江川 (佐賀江川・新 川・八田江・巨勢 川・中池江川・巨 勢川上流・黒川・ 焼原川・金立 川) 河川整備交付金 事業（広域河川 改修事業事業）	流路是正、狭窄部解消を 行い、治水安全度を向上 し、流域の浸水被害の軽 減及び排水機場建設に より内水対策を図る。 計画流量 240m3/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=576億円 工 期：S48～R20 改 修 延 長：L=42,740m 計 画 流 量：240m ³ /s 計画治水安全度：1/50 事業内容： 掘削・築堤、護岸 樋管72基、橋梁60基、 堰18基	新川工区、八田江工区、巨勢川工 区、黒川工区は完成している。 佐賀江川工区は、犬尾橋下流左岸 を残して整備済である。 巨勢川上流工区は、金立川合流点 から上流1.5km付近まで、ほぼ整備 済みである。 中池江川工区は姉川橋(国道34号) まで完成している。 焼原川工区は、狭窄部の掘削・護 岸整備を行っている。 金立川は、0.5kmの橋梁の改修が終 了している。 (R04末進捗率 88%) (年平均進捗率 1.8%)	(過去の災害実績) R01.8 浸水戸数 3083戸 (内水被害含む) R03.8 浸水戸数 406戸 (内水被害を含む) (地域の状況) 流域内の家屋や事業所等 は、ほぼ変化はない。	最新のマニ ュアル(R2)に基 づき、費用対効 果を算出し た。 (B/C)=6.8	同上	同上	平成 2 年洪水 被害を軽減す るため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。
	理由等			・地質調査結果に伴い、地盤 に軟弱層が確認されたことか ら、堤防の安定性を確保する ため、地盤改良や矢板基礎の 追加による増 ・地質調査結果に伴い、掘削 面に浸透層が確認されたこと から、施工時の土砂崩壊を防 止するため、締切矢板（仮設 工）の追加による増 ・高含水比の現地発生土につ いて埋戻土や他工事への流用 が困難なため、最終処分費用 が必要となったことによる増 ・各種建設資材費の高騰及び 労務費の上昇による増 ・事業用地の取得に関して調 整が必要であり、この調整に 時間を要していることによる 事業期間の延長	事業進捗率 		マニュアルの 更新に伴い、 公共土木施設 等被害額でB が増大し、費 用対効果 (B/C)の増と なった。			

事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生

平成2年7月洪水 床上浸水 1,116戸
 床下浸水 11,948戸
 浸水面積 5,447ha

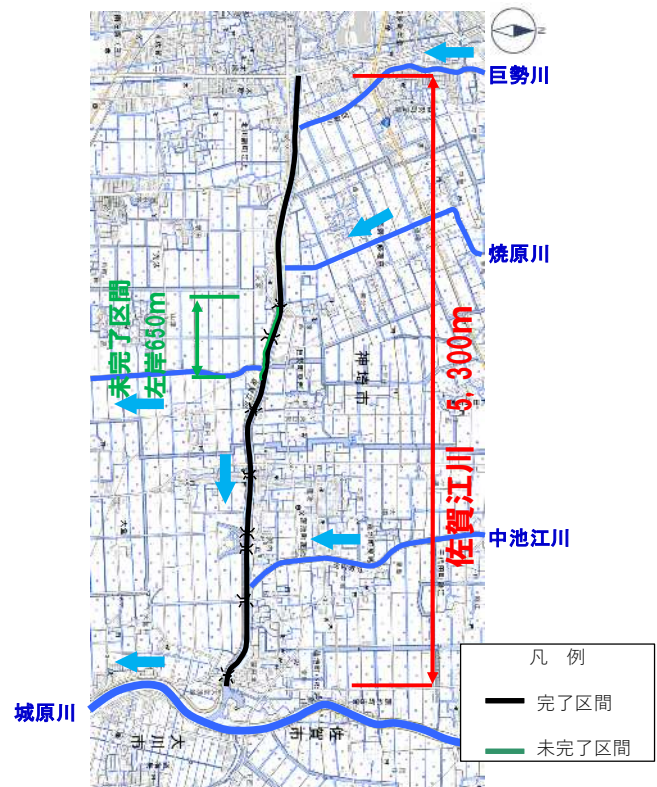
○浸水被害の軽減を図る

流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。

- ・ 計画流量 :240m³/s
- ・ 計画治水安全度: 1/50

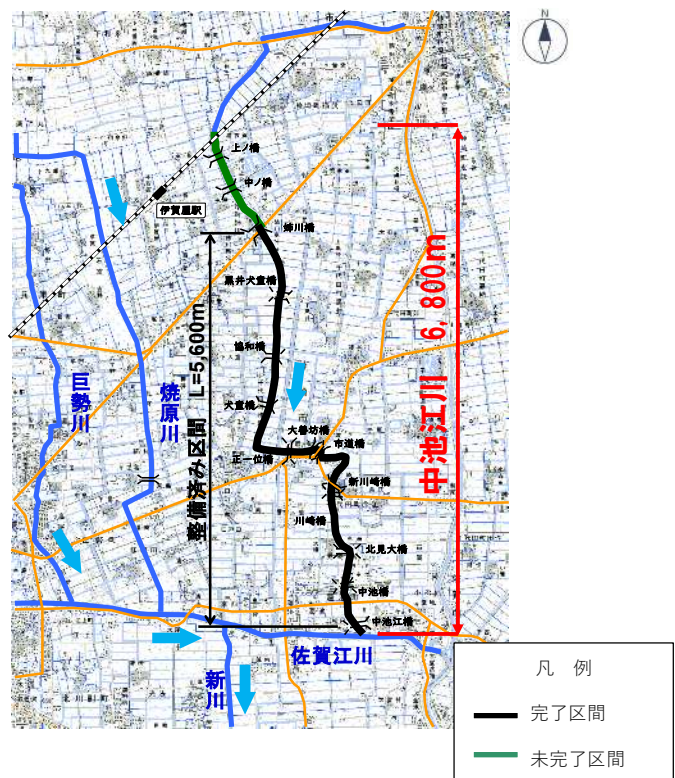
事業概要 [佐賀江川工区]

- 全体事業費:105億円
- 事業期間:S48~R20
- 改修延長:5,300m
- 計画流量:240m³/s
- 計画治水安全度:1/50
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 5,300m
 - ◆ 橋梁 7橋
 - ◆ 樋管 14箇所



事業概要 [中池江川工区]

- 全体事業費:163億円
- 事業期間:S48~R20
- 改修延長:6,800m
- 計画流量:60m³/s
- 計画治水安全度:1/50
- 実施内容
 - ◆掘削・築堤・護岸 6,800m
 - ◆橋梁 14橋
 - ◆堰 3箇所
 - ◆樋管 18箇所



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

4

事業概要 [巨勢川上流工区]

- 全体事業費:55億円
- 事業期間:H2~R20
- 改修延長:4,300m
- 計画流量:125m³/s
- 計画治水安全度:1/30~1/50
- 実施内容
 - ◆掘削・築堤・護岸 4,300m
 - ◆橋梁 4橋
 - ◆堰 5箇所
 - ◆樋管 1箇所

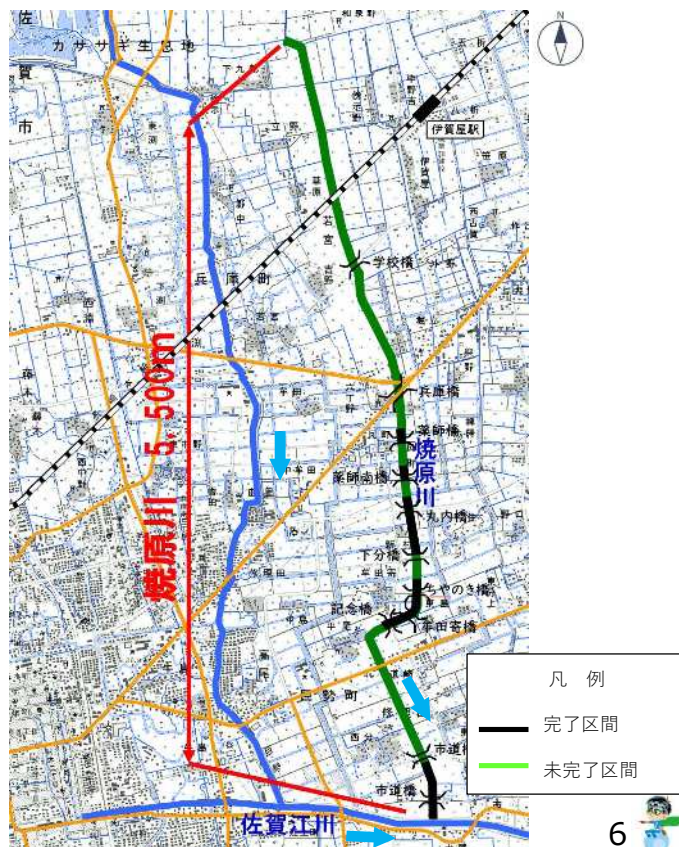


Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

5

事業概要 [焼原川工区]

- 全体事業費: 21億円
- 事業期間: H1~R20
- 改修延長: 5,500m
- 計画流量: 14m³/s
- 計画治水安全度: 1/10
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 5,500m
 - ◆ 橋梁 11橋
 - ◆ 堰 1箇所
 - ◆ 樋管 12箇所



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

6

事業概要 [金立川工区]

- 全体事業費: 16億円
- 事業期間: H4~R20
- 改修延長: 1,500m
- 計画流量: 23m³/s
- 計画治水安全度: 1/30
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 1,500m
 - ◆ 橋梁 4橋
 - ◆ 堰 4箇所



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

7

事業概要

		前回再評価時 (H30)	今回再評価時 (R5)
全体事業費		536億円	576億円
事業期間		S48 ～ H40(R10)	S48 ～ R20
改修延長		42,740m	42,740m
計画流量		240m ³ /s	240m ³ /s
計画治水安全度		1/50	1/50
事業内容	掘削・築堤・護岸等	42,740m	42,740m
	橋梁	60橋	60橋
	堰	18箇所	18箇所
	樋管	72箇所	72箇所
	その他	—	—
費用対効果		5.2	6.8

事業内容の見直し理由

○事業費の増額

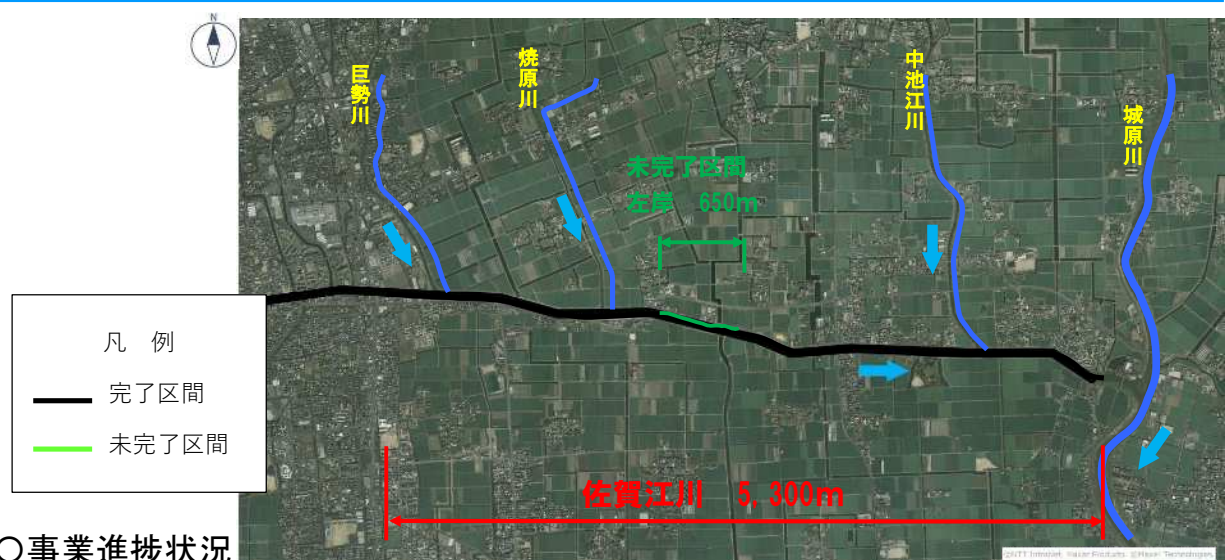
- 地質調査結果に伴い、地盤に軟弱層が確認されたことから、堤防の安定性を確保するため、地盤改良や矢板基礎の追加による増
- 地質調査結果に伴い、掘削面に浸透層が確認されたことから、施工時の土砂崩壊を防止するため、締切矢板(仮設工)の追加による増
- 高含水比の現地発生土について、埋戻土や他工事への流用が困難なため、最終処分費用が必要となったことによる増
- 各種建設資材費の高騰及び労務費の上昇による増

事業期間の見直し理由

○事業期間の延長

- ・ 事業用地の取得に関して調整が必要であり、この調整に時間を要していることによる事業期間の延長

事業進捗状況[佐賀江川工区]



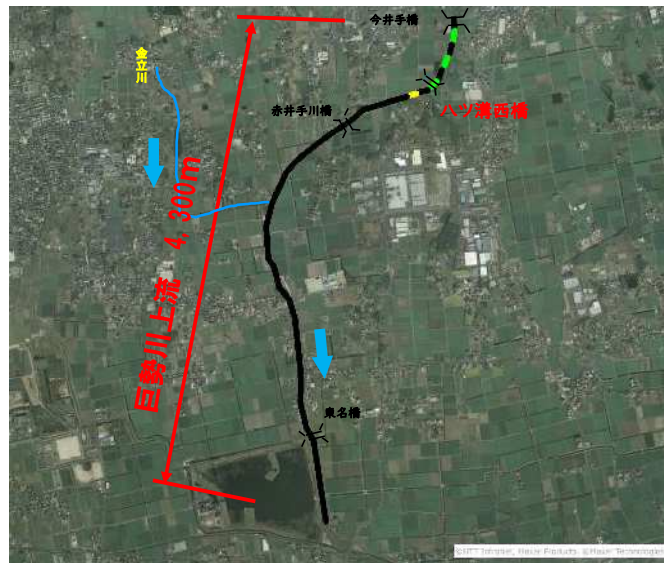
○事業進捗状況

- ・ 犬尾橋下流左岸650mを除き整備は完了。
- ・ 令和4年度末進捗率 89%(事業費ベース)
- ・ 年平均進捗率1.8%

	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(億円)	9.4	9.4	1.1
進捗率(%)	8.9	9.0	—
用地進捗率(%)	9.7	9.7	—

事業進捗状況[巨勢川上流工区]

凡 例
— 完了区間
— 未完了区間



○事業進捗状況

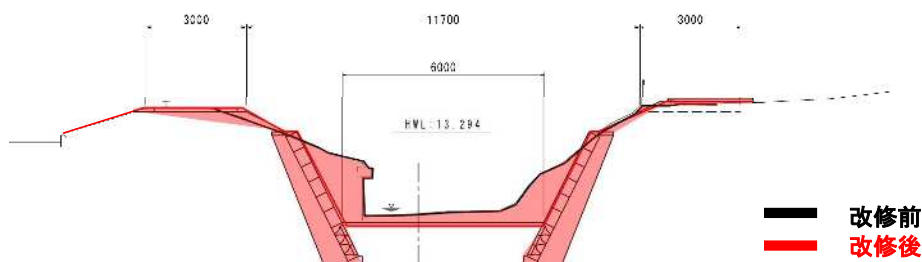
- ・ 八ツ溝西橋(3k850)まで、1/30～1/50で整備が概成
- ・ 令和4年度末進捗率 63%(事業費ベース)
- ・ 年平均進捗率 2.0%

	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(百万円)	35	35	20
進捗率(%)	63	64	—
用地進捗率(%)	94	94	—

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

整備の状況[巨勢川上流工区]

○標準横断面図



未整備区間



整備済区間

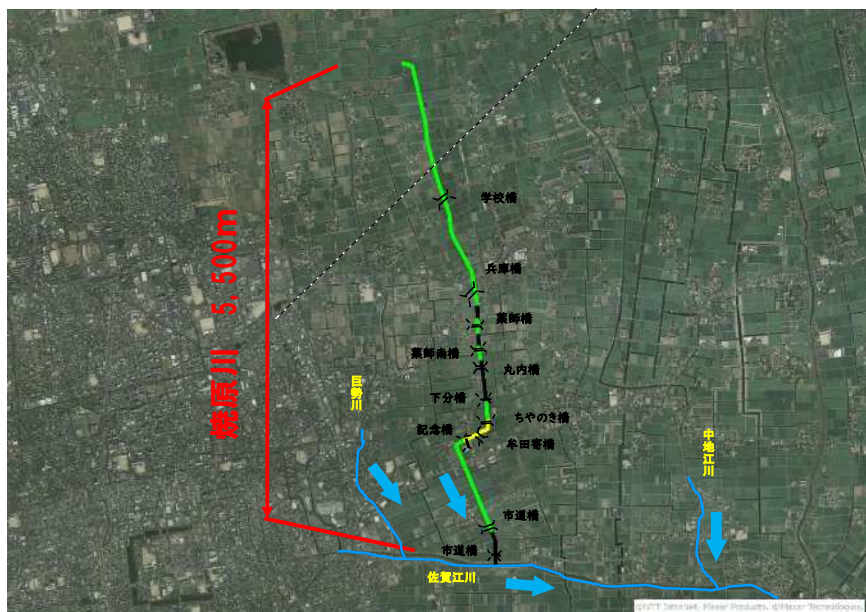


Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



事業進捗状況[焼原川工区]

凡 例	
—	完了区間
—	未完了区間



○事業進捗状況

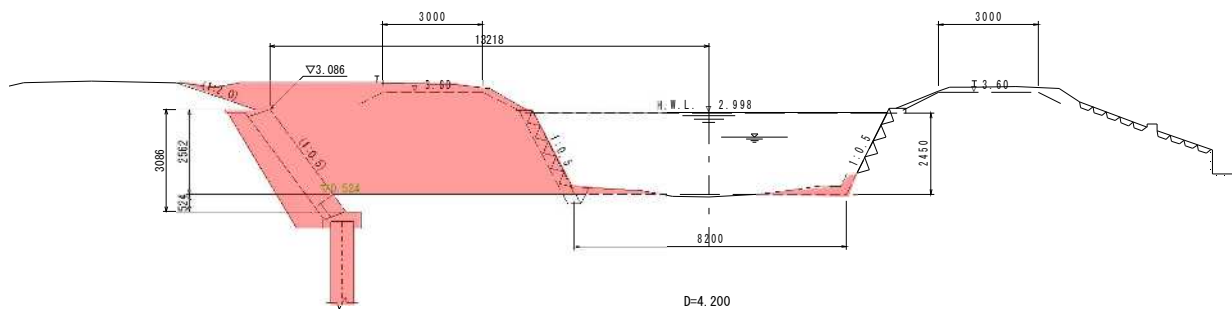
- 令和4年度末進捗率 83%(事業費ベース)
- 年平均進捗率 2.5%

	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(百万円)	17	17	4
進捗率(%)	83	83	—
用地進捗率(%)	92	92	—

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

整備の状況[焼原川工区]

○標準横断面図



改修前



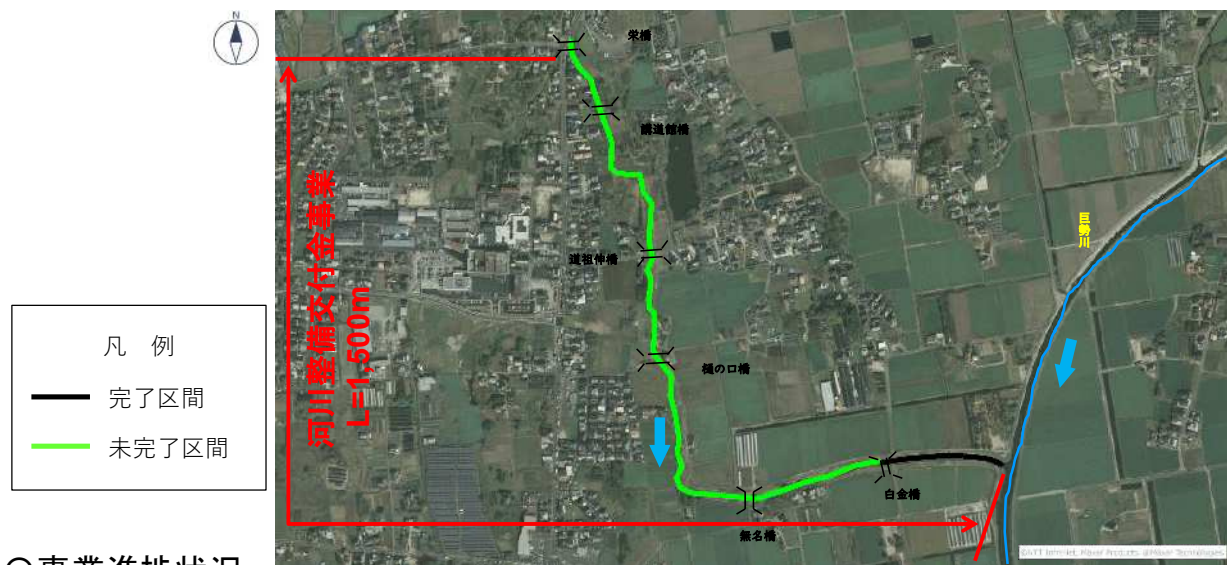
改修後



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



事業進捗状況[金立川工区]



○事業進捗状況

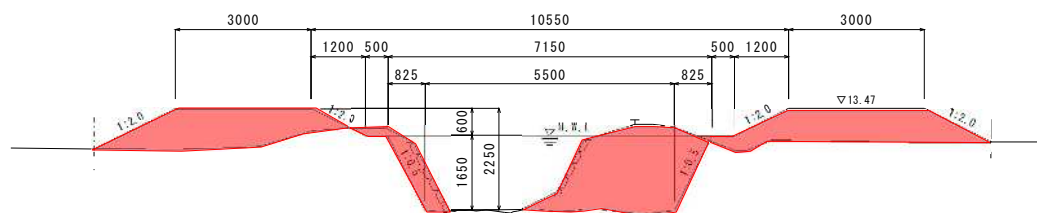
- 令和4年度末進捗率 27%(事業費ベース)
- 年平均進捗率 0.9%

	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(百万円)	4	6	10
進捗率(%)	27	36	—
用地進捗率(%)	70	70	—

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

整備の状況[金立川工区]

○標準横断面図



改修前



改修後



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

環境に配慮した整備の実施[中池江川]

絶滅危惧II類(VU) 【環境省レッドリスト】



アサザ

準絶滅危惧種
【佐賀県レッドリスト】



オグラコウホネ

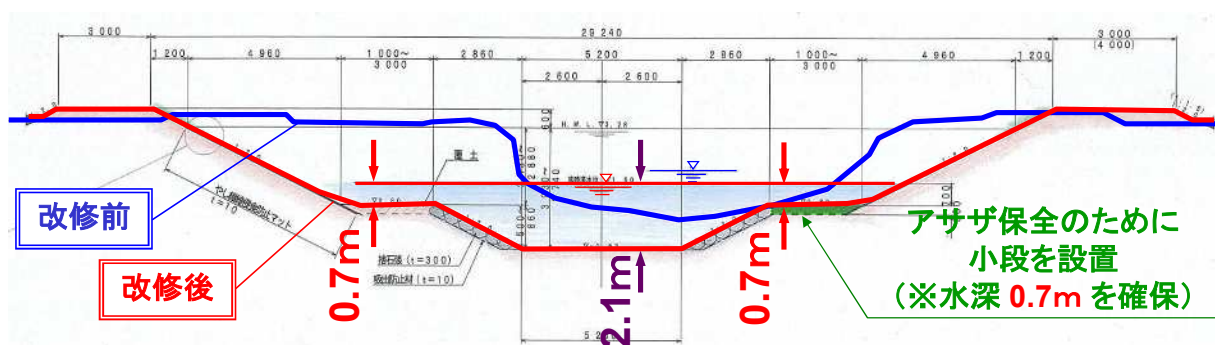
絶滅危惧II類種
【佐賀県レッドリスト】

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

20



希少種の生育に配慮した横断計画[中池江川]



常時管理水位による水深：2.1m
(堰上げ水位)

アサザが
生息しにくい

(アサザ生育に最適な)

水深 0.7m を確保するため、小段を設けた複断面形

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

21



施工後の状況[中池江川]



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

現在、アサザは活着している。22



過去の被害

昭和55年8月 梅雨前線豪雨

(連続雨量414.5mm、最大日雨量204mm、時間最大雨量37.5mm)

死者12名
佐賀市街3日間浸水



約60cmの冠水

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



過去の被害

平成2年7月 梅雨前線豪雨

(連続雨量380.5mm、最大日雨量285mm、時間最大雨量72mm)・・・気象台HPより



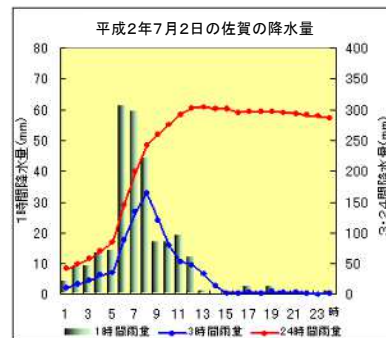
【巨勢川上流破堤状況】



【佐賀市街地浸水状況】



【巨勢川越水状況(学校橋)】



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

近年の被害状況

平成30年7月 梅雨前線豪雨



勧興小学校校門前 (南側)



成章中学校西側 (国道264号)



佐賀市多布施の市道 (右上写真を西側に行った所)



国道264号 (旧道との三差路: 上の写真の南側)

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

近年の被害状況

令和元年 8 月豪雨



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

26



事業を巡る社会情勢等の変化

○地域の状況

- 近年の洪水により、浸水被害が発生している。
- 近年の洪水により、氾濫危険水位を超過しており、住民避難が生じている。
- 流域内の家屋や事業所等においては、大きな変化はないが、流域の大半が低平地であるため事業の必要性が依然として高い状況である。

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

-18-

27



費用対効果の要因の変化

B/Cは1.0を上回っている

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年間の総便益額

- ・ 一般資産被害額 (家屋, 事業所等)
- ・ 農作物被害 (水稻, 畑作物等)
- ・ 公共土木施設等災害被害 (道路, 橋梁等, 農業施設)
- ・ 間接被害 (事業所の営業停止被害, 清掃費用等)
- ・ 残存価値

○総費用C: 259,521 百万円

○総便益B: 1,776,110 百万円

●費用対効果 $B/C = 1,776,110 / 259,521 \div 6.8$

コスト縮減や代替案等の可能性

○コスト縮減

- ・ 掘削土を埋戻に流用するなど建設副産物の有効活用を図り発生量を抑制する。
- ・ 護岸の裏込材に再生クラッシャーランを使うなど再生材を積極的に使用する。

○代替案の検討

- ・ 特になし

対応方針(事業課案)

- 佐賀江川は佐賀市東部を流下する河川で、佐賀市中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび浸水被害が発生している。本事業は、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。
- 費用対効果についても、 $B/C=1.0$ 以上(6.8)確保されている事業である。
- 事業進捗率は、事業費ベースで約88%[508億/576億](R4末時点)であり、用地進捗率は約98%となっている。
- 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化がなく、事業の必要性は依然として高い。
- よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。

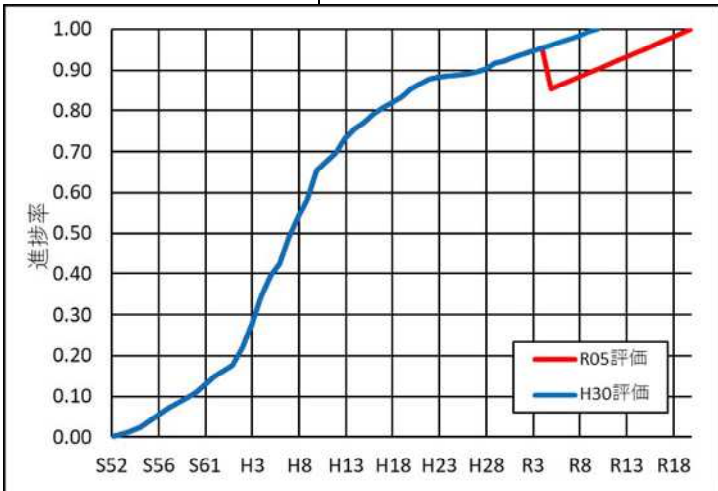
令和 5 年度公共事業再評価諮問地区「継続・中止」理由書等

(課名： 河川砂防課)

事業名 (路河川等名)	河川整備交付金事業（広域河川改修事業） (本庄江)
継続・中止理由	○ 本庄江は、佐賀市西部を流下し、河口付近で嘉瀬川に合流する河川で、佐賀市中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび浸水被害が発生している。本事業は、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。 ○ 費用対効果についても、B/C=1.0 以上（2.5）が確保されている事業である。 ○ 事業進捗率は、事業費ベースで約 84% [127 億/151 億]（R4 末時点）であり、用地進捗率は約 98%となっている。 ○ 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性は依然として高い。 ○ よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。
B／Cの 算出方法	総便益（B）は河川改修による年平均被害軽減額を対象期間分合計したもの。 総費用（C）は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分合計したもの。 （※対象期間＝整備期間＋施設完成後 50 年間。） 総便益額（現在価値化した総便益） B = 129,977 百万円 総費用額（現在価値化した総費用） C = 52,808 百万円 $B / C = 129,977 / 52,808 = 2.5$
備考	

令和5年度再評価対象事業
(対象：平成30年度再評価実施事業)

(再評価実施後、一定期間（5年）が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果の要因の変化	コスト削減や代替案等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)
	再評価時点 H30	本庄江 河川整備交付金 事業（広域河川 改修事業）	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。 計画流量 100m³/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=131億円 工期：S52～H40 (R10) 改修延長：L=7,405m 事業内容： 掘削・築堤・護岸、 樋管19基、橋梁10基、 堰2基、水門1基	今重橋付近（3.0k付近） まで、暫定整備が完了。 (H29末進捗率 92%) (年平均進捗率2.2%)	(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 500戸 浸水面積 520ha (地域の状況) 右岸側は県立病院好生館が移 転し開業している。また、有明 海沿岸道路と佐賀唐津道路の インターが建設予定。	最新のマニュアルに基づき、費用 対効果（B/C）を 算出した。 （B/C）＝2.5	・再生材の積極的 利用 ・建設副産物の有効利用	再評価実施後 5 年が経過	平成2年等の洪水被害を軽減 するため、流路 是正、狭窄部解 消を行い、治水 安全度を向上 し、地域住民の 安心・安全を確保 するためには、当事業の継続が必要である。
	現時点 R5	本庄江 河川整備交付金 事業（広域河川 改修事業）	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。 計画流量 100m³/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=151億円 工期：S52～R20 改修延長：L=7,405m 事業内容： 掘削・築堤・護岸、 樋管19基、橋梁10基、 堰2基、水門1基	今重橋付近（3.0k付近） まで、暫定整備が完了。 今重橋上流の地盤改良 を実施中。 (R4末進捗率 84%) (年平均進捗率1.8%)	(過去の災害実績) 同上 (地域の状況) 有明海沿岸道路と佐賀唐津 道路のインターが建設予定。 流域内の家屋や事業所等の 状況は、ほぼ変化はない。	最新のマニュアルに基づき、費用 対効果（B/C）を 算出した。 （B/C）＝2.5	同上	再評価実施後 5 年が経過	平成2年等の洪水被害を軽減 するため、流路 是正、狭窄部解 消を行い、治水 安全度を向上 し、地域住民の 安心・安全を確保 するためには、当事業の継続が必要である。
	理由等			・高含水比の現地発生土について、埋戻土や他工事への流用が困難なため、運搬のための石灰処理及び最終処分費用が必要となったことによる増 ・各種建設資材費の高騰及び労務の上昇による増 ・地盤改良及び河道掘削の実施に伴い、下流域の漁協との調整が必要であり、施工時期の制約による事業期間の延長			マニュアルの更新に伴い、公共土木施設等被害額でBが増大したものの、事業費増及び事業期間延長によりCも増大し、費用対効果（B/C）は変更なし。			

嘉瀬川水系本庄江 河川整備交付金事業 (広域河川改修事業)

佐賀市

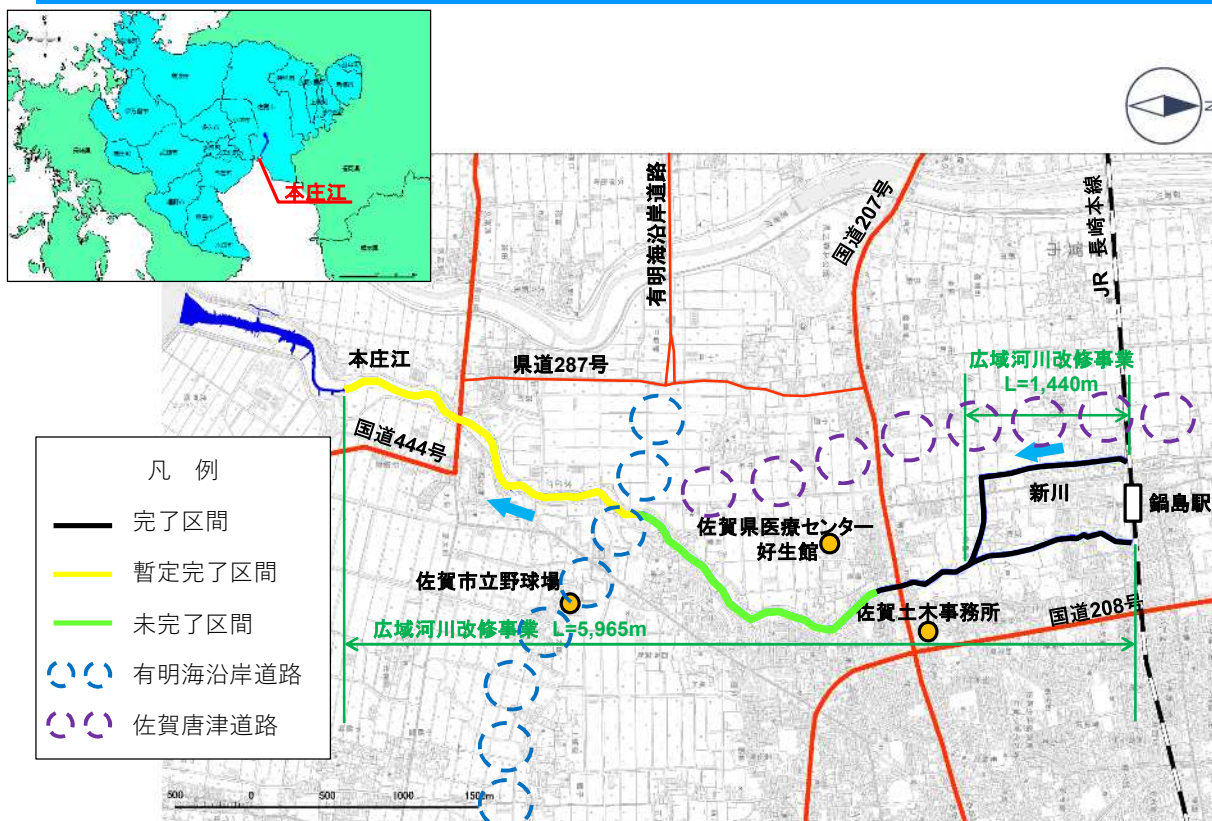
(再評価実施後5年が経過)



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



位置図



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生

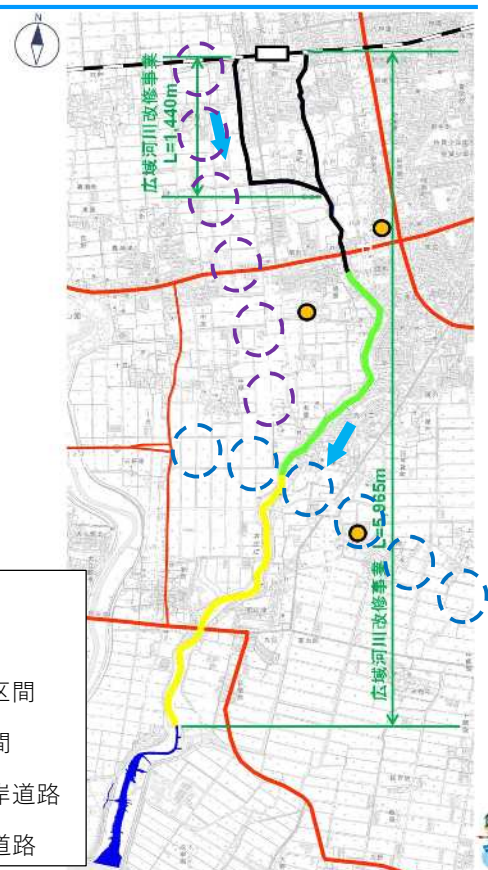
- 平成2年7月洪水 浸水戸数 500戸
浸水面積 520ha

○浸水被害の軽減を図る

- 流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る
計画流量 : 100m³/s
計画治水安全度: 1/50

事業概要 [本庄江工区]

- 全体事業費:151億円
- 事業期間: S52~R20
- 改修延長: 7,405m
- 計画流量: 100m³/s
- 計画治水安全度: 1/50
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 L=7,405m
 - ◆ 橋梁 N=10橋
 - ◆ 樋管 N=19基
 - ◆ 堰 N=2基
 - ◆ 水門 N=1基
- 費用対効果: 2.5



事業概要

		前回再評価時 (H30)	今回再評価時 (R5)
全体事業費		131億円	151億円
事業期間		S52～R10	S52～R20
改修延長		7,405m	7,405m
計画流量		100m ³ /s	100m ³ /s
計画治水安全度		1/50	1/50
事業内容	掘削・築堤・護岸等	7,405m	7,405m
	橋梁	10橋	10橋
	堰	2基	2基
	水門	1基	1基
	その他	樋管19基	樋管19基
費用対効果		2.5	2.5

事業内容の見直し理由

○事業費の増額

- ・ 高含水比の現地発生土について、埋戻土や他工事への流用が困難なため、運搬のための石灰処理及び最終処分費用が必要となったことによる増
- ・ 各種建設資材費の高騰及び労務費の上昇による増

事業期間の見直し理由

○事業期間の延長

- ・地盤改良及び河道掘削の実施に伴い、下流域の漁協との調整が必要であり、施工時期の制約による事業期間の延長

事業進捗状況



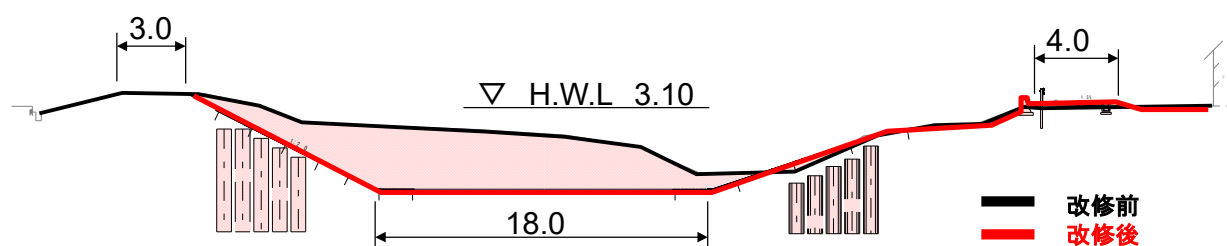
○事業進捗状況

- ・西今宿川合流点付近から上流は、塚原橋付近を除き、整備完了
- ・今重橋付近(3k000m)まで暫定完了。今重橋上流で地盤改良を実施中
- ・令和4年度末進捗率 84%
- ・年平均進捗率1.8%

	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(億円)	127	129	22
進捗率(%)	84	85	—
用地進捗率(%)	98	98	—

整備の状況

○標準横断図



改修前



改修後



4k200m

8

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

環境に配慮した整備の実施

改修直後



改修後20年後



○河川改修効果

- 「連接ブロック(植生・擬岩)」、「玉石柳枝工」、「片法枠工(魚巢)」を施工したことにより、水際の植生が活着し空間の連続性が創出されている。

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

過去の被害

○平成2年7月(梅雨前線豪雨)

連続雨量463.5mm、最大日雨量313mm
時間最大雨量66mm(佐賀土木事務所 雨量観測所)

浸水戸数500戸
浸水面積520ha



国道208号の冠水状況(佐賀市八戸付近)



国道208号の冠水状況(佐賀市八戸付近)

○平成20年6月(豪雨)



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

10



事業を巡る社会情勢等の変化

○地域の状況

- 近年の洪水により、浸水被害が発生している。
- 近年の洪水により、氾濫危険水位付近まで上昇しており、住民避難が生じている。
- 流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性が依然として高い。
- 有明海沿岸道路と佐賀唐津道路のインターが建設予定であり、交通の要衝として今後はますます重要性が高くなる。

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

11



費用対効果の要因の変化

B/Cは1.0を上回っている

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年間の総便益額

- ・ 一般資産被害額 (家屋, 事業所等)
- ・ 農作物被害 (水稻, 畑作物等)
- ・ 公共土木施設等災害被害 (道路, 橋梁等)
- ・ 間接被害(事業所の営業停止被害, 清掃費用等)
- ・ 残存価値

○総費用C: 52,808百万円

○総便益B: 129,977百万円

●費用対効果 $B/C = 129,977 / 52,808 \div 2.5$

コスト縮減や代替案等の可能性

○コスト縮減

- ・ 流用可能な掘削土を埋戻や覆土に利用するなど建設副産物の有効活用を図り発生量を抑制する。
- ・ 護岸の裏込材に再生クラッシャーランを使うなど再生材を積極的に使用する。

○代替案の検討

- ・ 特になし

対応方針(事業課案)

- 本庄江は、佐賀市西部を流下し、河口付近で嘉瀬川に合流する河川で、佐賀市中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび浸水被害が発生している。本事業は、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。
- 費用対効果についても、 $B/C=1.0$ 以上(2.5)が確保されている事業である。
- 事業進捗率は、事業費ベースで約84%[127億/151億](R4末時点)であり、用地進捗率は約98%となっている。
- 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により氾濫危険水位付近まで上昇しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性は依然として高い。
- よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。

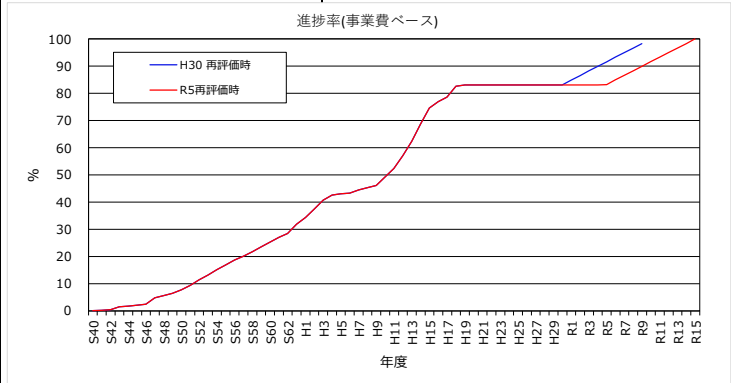
令和５年度公共事業再評価諮問地区「継続・中止」理由書等

(課名： 河川砂防課)

事業名 (路河川等名)	河川整備交付金事業（総合流域防災事業） (牛津江川)
継続・中止理由	○ 牛津江川は、小城市を流下し、牛津川に合流する河川で、小城市の中心部に近く、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび流域に浸水被害が発生している。本事業は、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。 ○ 費用対効果についても、$B/C=1.0$ 以上（11.8）が確保されている事業である。 ○ 事業進捗率は、事業費ベースは約 83% [50.7 億/61.0 億]（R4 末時点）であり、用地進捗率は約 93%となっている。 ○ 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性は依然として高い。 ○ よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。
B／Cの 算出方法	総便益（B）は河川改修による年平均被害軽減額を対象期間分合計したもの。 総費用（C）は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分合計したもの。 （※対象期間＝整備期間＋施設完成後 50 年間。） 総便益額（現在価値化した総便益） $B = 427,463$ 百万円 総費用額（現在価値化した総費用） $C = 36,175$ 百万円 $B/C = 427,463 / 36,175 = 11.8$
備考	

令和 5 年度再評価対象事業
(対象：平成 3 0 年度再評価実施事業)

(再評価実施後、一定期間（5年）が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情 勢 等 の 変 化	費用対効果の 要因の変化	コスト削減や代替案 等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業課案)																																																																																																										
	再評価時点 H 3 0	牛津江川 河川整備交付金 事業（社会資本 整備総合交付 金：総合流域防 災事業）	流路是正、狭窄部解消を行 い、治水安全度を向上し、 流域の浸水被害の軽減を 図る。 計画流量 140m3/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=61.0億円 工 期：S40～H40 (R10) 改 修 延 長：L=5,700m 事業内容： 掘削・築堤、護岸 樋管17基、橋梁13基、 堰8基	砂田橋下流部について は完成しており、上流 区間の約600mを残すの みとなっている。 上流部については用地 買収の促進を図ってい る。 国道34号江津ヶ里橋他 10橋完成 (H29末進捗率 83%) (年平均進捗率 1.6%)	(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 430戸 浸水面積 550ha (地域の状況) 特になし	最新のマニュアル に基づき、費用対効 果（B/C）を算定 した。 (B/C)=5.1	・再生材の積極的 利用 ・建設副産物の有 効利用	再評価実施後 5 年が経過	平成2年洪水被 害を軽減する ため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。																																																																																																										
	現時点 R 5	牛津江川 河川整備交付金 事業（社会資本 整備総合交付 金：総合流域防 災事業）	流路是正、狭窄部解消を行 い、治水安全度を向上し、 流域の浸水被害の軽減を 図る。 計画流量 140m3/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=61.0億円 工 期：S40～R15 改 修 延 長：L=5,700m 事業内容： 掘削・築堤、護岸 樋管17基、橋梁13基、 堰8基	砂田橋下流部について は完成しており、上流 区間の約600mを残すの みとなっている。 上流部については用地 買収の促進を図ってい る。 国道34号江津ヶ里橋他 10橋完成 (R4末進捗率 83%) (年平均進捗率 1.5%)	(過去の災害実績) H30.7 浸水戸数 26戸 (地域の状況) 流域内の家屋や事業所等の 状況は、ほぼ変化ない。	最新のマニュアル に基づき費用対効 果（B/C）を算定 した。 (B/C)=11.8	同上	同上	平成2年洪水被 害を軽減する ため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。																																																																																																										
	理由等			事業を進めるにあたり、 地元との合意形成に時 間を要していることによ る事業期間の延長	進捗率(事業費ベース)  <table><caption>進捗率(事業費ベース)の推定データ</caption><tr><th>年度</th><th>H30再評価時 (%)</th><th>R5再評価時 (%)</th></tr><tr><td>S40</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S42</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S44</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S46</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S48</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S50</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S52</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S54</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S56</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S58</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S60</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S62</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H1</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H3</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H5</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H7</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H9</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H11</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H13</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H15</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H17</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H19</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H21</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H23</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H25</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H27</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>H29</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>R1</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>R3</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>R5</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>R7</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>R9</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>R11</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>R13</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>R15</td><td>0</td><td>0</td></tr></table>		年度	H30再評価時 (%)	R5再評価時 (%)	S40	0	0	S42	0	0	S44	0	0	S46	0	0	S48	0	0	S50	0	0	S52	0	0	S54	0	0	S56	0	0	S58	0	0	S60	0	0	S62	0	0	H1	0	0	H3	0	0	H5	0	0	H7	0	0	H9	0	0	H11	0	0	H13	0	0	H15	0	0	H17	0	0	H19	0	0	H21	0	0	H23	0	0	H25	0	0	H27	0	0	H29	0	0	R1	0	0	R3	0	0	R5	0	0	R7	0	0	R9	0	0	R11	0	0	R13	0	0	R15	0	0	マニュアルの更新 に伴い、公共土木施 設等被害額でBが 増大し費用対効果 (B/C)の増となっ た。	
年度	H30再評価時 (%)	R5再評価時 (%)																																																																																																																		
S40	0	0																																																																																																																		
S42	0	0																																																																																																																		
S44	0	0																																																																																																																		
S46	0	0																																																																																																																		
S48	0	0																																																																																																																		
S50	0	0																																																																																																																		
S52	0	0																																																																																																																		
S54	0	0																																																																																																																		
S56	0	0																																																																																																																		
S58	0	0																																																																																																																		
S60	0	0																																																																																																																		
S62	0	0																																																																																																																		
H1	0	0																																																																																																																		
H3	0	0																																																																																																																		
H5	0	0																																																																																																																		
H7	0	0																																																																																																																		
H9	0	0																																																																																																																		
H11	0	0																																																																																																																		
H13	0	0																																																																																																																		
H15	0	0																																																																																																																		
H17	0	0																																																																																																																		
H19	0	0																																																																																																																		
H21	0	0																																																																																																																		
H23	0	0																																																																																																																		
H25	0	0																																																																																																																		
H27	0	0																																																																																																																		
H29	0	0																																																																																																																		
R1	0	0																																																																																																																		
R3	0	0																																																																																																																		
R5	0	0																																																																																																																		
R7	0	0																																																																																																																		
R9	0	0																																																																																																																		
R11	0	0																																																																																																																		
R13	0	0																																																																																																																		
R15	0	0																																																																																																																		

六角川水系牛津江川 (総合流域防災事業)

小城市

(再評価実施後5年が経過)



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



位置図



凡 例	
	完了区間
	未完了区間

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生

- 平成2年7月洪水 浸水戸数 430戸
浸水面積 550ha

○浸水被害の軽減を図る

流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。

- 計画流量 : 140m³/s
- 計画治水安全度: 1/50

事業概要

- 全体事業費: 61.0億円
- 事業期間: S40~R15
- 改修延長: 5,700m
- 計画流量: 140m³/s
- 計画治水安全度: 1/50
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 L=5,700m
 - ◆ 橋梁 N=13橋
 - ◆ 堰 N=8基
 - ◆ 樋管 N=17基
- 費用対効果: 11.8



事業概要

		前回再評価時 (H30)	今回再評価時 (R5)
全体事業費		61.0 億円	61.0 億円
事業期間		S40 ~ H40(R10)	S40 ~ R15
改修延長		5,700 m	5,700 m
計画流量		140 m ³ /s	140 m ³ /s
計画治水安全度		1/50	1/50
事業内容	掘削・築堤・護岸等	5,700 m	5,700 m
	橋梁	13 橋	13 橋
	堰	8 基	8 基
	樋管	17 基	17 基
	その他	—	—
費用対効果		5.1	11.8

事業期間の見直し理由

○事業期間の延長

- 事業を進めるにあたり地元との合意形成に時間を要していることによる事業期間の延長

事業進捗状況



○事業進捗状況

- ・ 砂田橋付近(5k125m)まで整備が完了
- ・ 令和4年度末進捗率 83% (事業費ベース)
- ・ 年平均進捗率 1.5%

	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(億円)	50.7	50.8	10.2
進捗率(%)	83	83	—
用地進捗率(%)	93	93	—

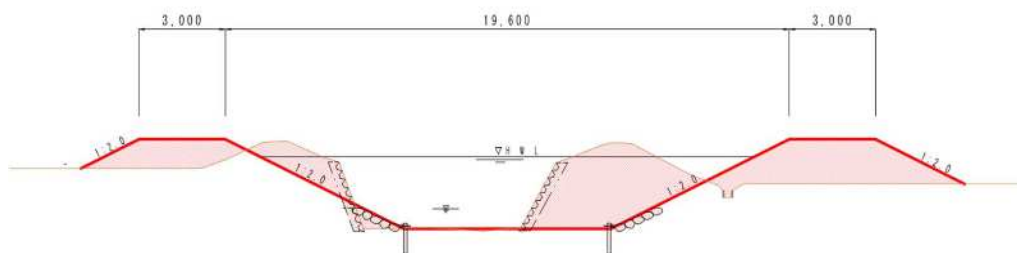
Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



6

整備の状況

○標準横断面図



改修前



改修後



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



7

環境に配慮した整備の実施

改修前



改修後



○河川改修効果

- 従前のブロック積護岸を取り壊し、土堤としたことで、水際の植生が活着し空間の連続性が創出されている。

過去の被害

平成2年7月 梅雨前線豪雨 牛津江川



牛津町市街地



牛津駅付近

近年の被害

平成30年7月 梅雨前線 牛津江川

連続雨量236mm 最大日雨量182mm 時間最大雨量39mm
(国土交通省 小城観測所)



Copyright © 2019 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

10 

事業を巡る社会情勢等の変化

○地域の状況

- 近年の洪水により、浸水被害が発生している。
- 近年の洪水により、氾濫危険水位を超過しており、住民避難が生じている。
- 流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性は依然として高い。

費用対効果の要因の変化

B/Cは1.0を上回っている

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年間の総便益額

- ・ 一般資産被害額 (家屋, 事業所等)
- ・ 農作物被害 (水稻, 畑作物等)
- ・ 公共土木施設等災害被害 (道路, 橋梁等)
- ・ 間接被害 (事業所の営業停止被害, 清掃費用等)
- ・ 残存価値

○総費用C: 36,175百万円

○総便益B: 427,463百万円

●費用対効果 $B/C = 427,463 / 36,175 \div 11.8$

コスト縮減や代替案等の可能性

○コスト縮減

- ・ 水衝部となる箇所への寄石工に現地発生材や近隣他工事で発生した石材を使用する。また、掘削土を埋戻に流用するなど建設副産物の有効活用を図り発生量を抑制する。
- ・ 取付護岸の裏込材に再生クラッシャーランを使うなど再生材を積極的に使用する。

○代替案の検討

- ・ 特になし

対応方針(事業課案)

- 牛津江川は、小城市を流下し、牛津川に合流する河川で、小城市の中心部に近く、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび流域に浸水被害が発生している。本事業は、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。
- 費用対効果についても、 $B/C=1.0$ 以上(11.8)が確保されている事業である。
- 事業進捗率は、事業費ベースは約83%[50.7億/61.0億](R4末時点)であり、用地進捗率は約93%となっている。
- 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性は依然として高い。
- よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。



令和5年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

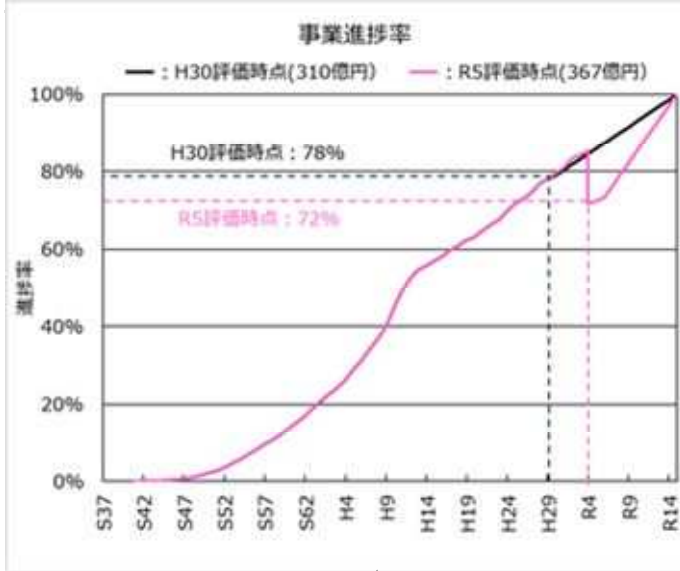
(課名：河川砂防課)

業 名 (路河川等名)	河川整備交付金事業(広域河川改修事業) (田手川(田手川・三本松川・馬場川))
継続・中止理由	○ 田手川は、吉野ヶ里町、神崎市を流下し、筑後川に合流する河川で、吉野ヶ里町、神崎市の中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび流域に浸水被害が発生している。本事業は、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。 ○ 費用対効果についても、$B/C=1.0$以上(7.0)が確保されている事業である。 ○ 事業進捗率は、事業費ベースで約72%[264億/367億](R4末時点)であり、用地進捗率は約76%となっている。 ○ 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況に変化はなく、事業の必要性は依然として高い。 ○ よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。
B/Cの 算出方法	総便益(B)は河川改修による年平均被害軽減額を対象期間分合計したもの。 総費用(C)は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分合計したもの。 (※対象期間=整備期間+施設完成後50年間。) 総便益額(現在価値化した総便益) $B = 879,970$ 百万円 総費用額(現在価値化した総費用) $C = 125,357$ 百万円 $B/C = 879,970 / 125,357 = 7.0$
備 考	

令和5年度再評価対象箇所

(再評価実施後、一定期間（5年）が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業）

(対象：平成30年度再評価実施箇所)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果 の要因の変化	コスト削減や代替案 等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業観)
	再評価 時点 H30	田手川 (田手川・三本松川・馬場川) 河川整備交付金事業 (広域河川改修事業)	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減及び排水機場建設により内水対策を図る。 (田手川) 計画流量 490m3/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=310億円 工期：S41～H45 (R15) 改修延長：L=16,350m 事業内容： 掘削・築堤、護岸排水機場2箇所 樋管9基、橋梁43基、堰17基	田手川については、田手村橋下流は完成しており、そこから上流の河原橋までは1/10での治水安全度の暫定整備が完成している。 三本松川については、国道385号下流まで完成している。 馬場川については、野目ヶ里橋下流まで完成している。 橋梁35橋が完成。 (H29末進捗率78%) (年平均進捗率1.5%)	(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 487戸 浸水面積 3,390ha 内水被害が頻発し、国道385号が通行止めになる等、被害が発生している。 (地域の状況) 特に無し。	H17策定のマニュアルに基づき、費用対効果 (B/C) を算出した。 (B/C) = 5.8	・再生材の積極的利用 ・建設副産物の有効利用 ・堰改築について、地元調整の上、統廃合を実施。	再評価実施後5年が経過	昭和28年、平成2年等の洪水被害を軽減するため、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、地域住民の安全を確保するためには、当事業の継続が適当である。
	現時点 R5	田手川 (田手川・三本松川・馬場川) 河川整備交付金事業 (広域河川改修事業)	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減及び排水機場建設により内水対策を図る。 (田手川) 計画流量 490m3/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=367億円 工期：S41～R15 改修延長：L=16,350m 事業内容： 掘削・築堤、護岸排水機場2箇所 樋管18基、橋梁43基、堰17基	田手川については、田手村橋下流は完成しており、そこから上流の鴨井手橋までは1/10での治水安全度の暫定整備が完成している。 三本松川については、国道385号下流まで完成している。 馬場川については、新橋下流まで完成している。 橋梁35橋が完成。 (R4末進捗率72%) (年平均進捗率1.3%)	(過去の災害実績) R5.7 JR橋部越水 (三本松川) (地域の状況) 流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化は無い。	R2策定のマニュアルに基づき、費用対効果 (B/C) を算出した。 (B/C) = 7.0	同上	再評価実施後5年が経過	昭和28年、平成2年等の洪水被害を軽減するため、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、地域住民の安全を確保するためには、当事業の継続が適当である。
	理由等			・環境に配慮しながら河川設計を行った結果、当初想定より河川幅を広く確保する必要が生じ、盛土及び掘削の数量の変更による増 ・護岸設計に必要なとなる地質調査を実施した結果、崩壊しやすい浸透層が確認されたことから、施工時の土砂崩壊防止として、締切矢板（仮設工）が追加で必要になったことによる増 ・現地発生土に不純物が混入しており、埋戻土や他工事への流用が困難なため、最終処分費用が必要になったことによる増 ・各種建設資材費の高騰及び労務費の上昇による増			マニュアル更新に伴い、公共土木施設等被害額の増等からBが増大し、費用対効果(B/C)の増となった。			

筑後川水系田手川 河川整備交付金事業 (広域河川改修事業)

神崎市、吉野ヶ里町

(再評価実施後5年が経過)



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

MORIKAWAKAITO PROJECT

筑後川の豊かな川・海、そらが未来へつなぐ取り組みです
<http://morikawakaito.org/>

森川海はひとつ

位置図



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生

- 平成2年7月洪水 浸水戸数 487戸
 浸水面積 3,390ha

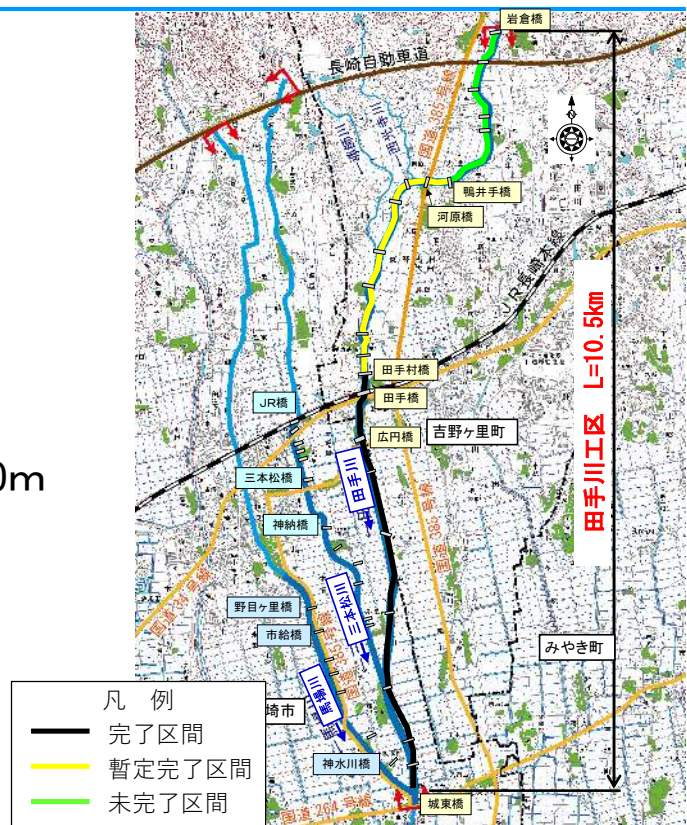
○浸水被害の軽減を図る

河道改修(流路是正、狭窄部解消等)を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。

- 計画流量 : 490m³/s
- 計画治水安全度 : 1/50

事業概要 [田手川工区]

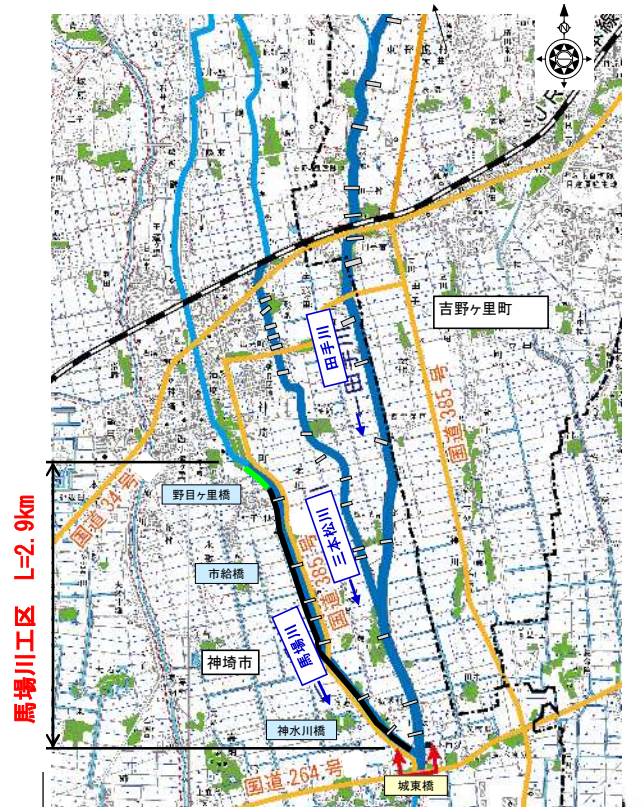
- 全体事業費: 278億円
- 事業期間: S41~R15
- 改修延長: 10,500m
- 計画流量: 490m³/s
- 計画治水安全度: 1/50
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 L=10,500m
 - ◆ 橋梁 N=22橋
 - ◆ 堰 N=10基
 - ◆ 排水機場 N=2基



事業概要 [馬場川工区]

- 全体事業費: 38億円
- 事業期間: S52~R15
- 改修延長: 2,900m
- 計画流量: 30m³/s
- 計画治水安全度: 1/10
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 L=2,900m
 - ◆ 橋梁 N=8橋
 - ◆ 堰 N=3基

凡 例
 — 完了区間
 — 未完了区間



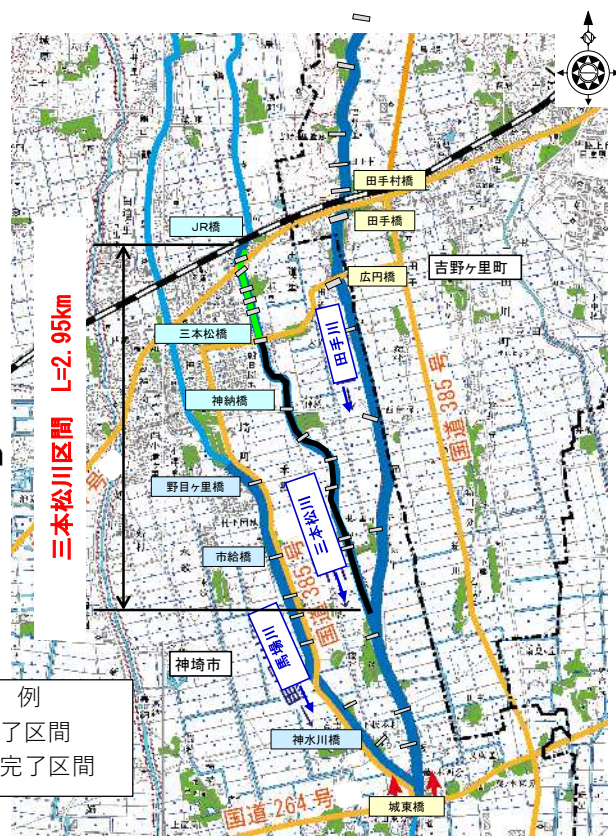
Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

4

事業概要 [三本松川工区]

- 全体事業費: 51億円
- 事業期間: S59~R15
- 改修延長: 2,950m
- 計画流量: 35m³/s
- 計画治水安全度: 1/10
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 L=2,950m
 - ◆ 橋梁 N=13橋
 - ◆ 堰 N=4基

凡 例
 — 完了区間
 — 未完了区間



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

5

事業概要

	前回再評価時 (H30)	今回再評価時 (R5)
全体事業費	309 億円	367 億円
事業期間	S41 ~ H45(R15)	S41 ~ R15
改修延長	16,350 m	16,350 m
計画流量	490 m ³ /s	490 m ³ /s
計画治水安全度	1/50	1/50
事業内容	掘削・築堤・護岸等	16,350 m
	橋梁	43 橋
	堰	17 基
	水門	一 基
	その他	排水機場 2 基
費用対効果	5.8	7.0

事業内容の見直し理由

○事業費の増額

- ・ 環境に配慮しながら河川設計を行った結果、当初想定より河川幅を広く確保する必要が生じ、盛土及び掘削の数量の変更による増
- ・ 護岸設計に必要となる地質調査を実施した結果、崩壊しやすい浸透層が確認されたことから、施工時の土砂崩壊防止として、締切矢板(仮設工)が追加で必要になったことによる増
- ・ 現地発生土に不純物が混入しており、埋戻土や他工事への流用が困難なため、最終処分費用が必要になったことによる増
- ・ 各種建設資材費の高騰及び労務費の上昇による増

事業進捗状況[田手川工区]

凡 例	
—	完了区間
—	暫定完了区間
—	未完了区間



○事業進捗状況

- 田手村橋付近(5k100)まで整備が完了
- 鴨井手橋付近(7k900m)まで整備が暫定完了
- 令和4年度末進捗率 77%(事業費ベース)
- 年平均進捗率 1.4%

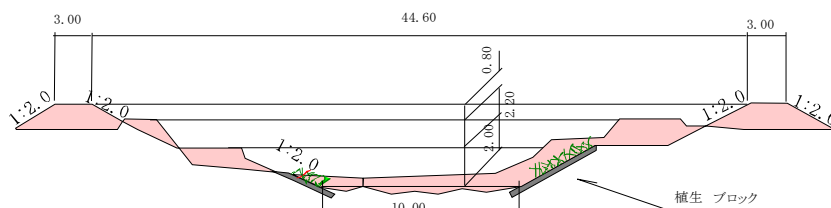
	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(億円)	214	215	63
進捗率(%)	77	77	—
用地進捗率(%)	99	99	—

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



整備の状況[田手川工区]

○標準横断面図



改修前



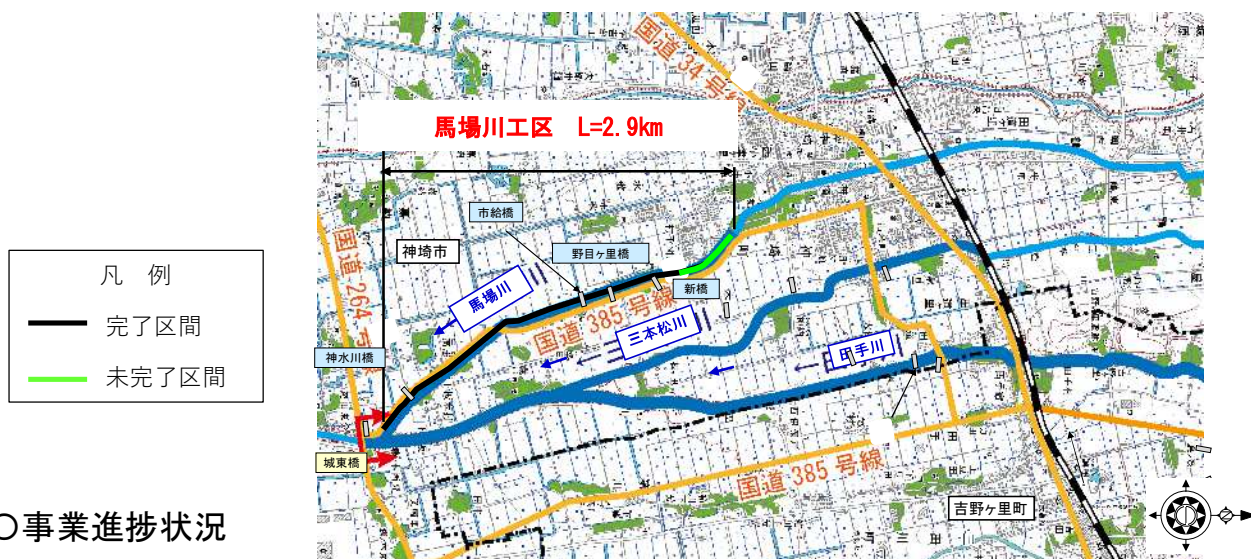
改修後



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



事業進捗状況[馬場川工区]



○事業進捗状況

- 新橋下流付近(2k700m)まで整備が完了
- 令和4年度末進捗率 88%(事業費ベース)
- 年平均進捗率 1.9%

	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(億円)	34	34	4
進捗率(%)	88	89	—
用地進捗率(%)	94	94	—

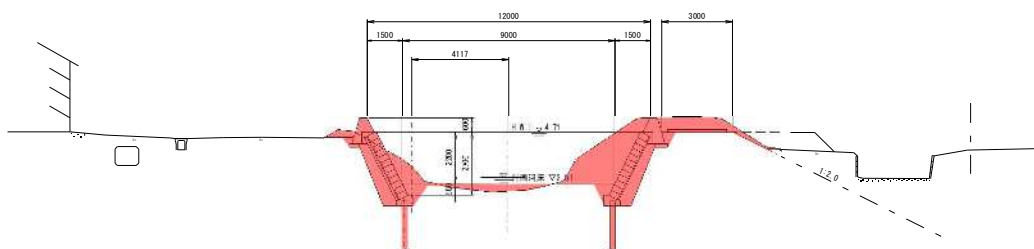
Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved

10



整備の状況[馬場川工区]

○標準横断面図



改修前



改修後



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

11



事業進捗状況 [三本松川工区]



○事業進捗状況

- ・ 国道385号下流まで整備が完了
- ・ R4年度末進捗率 31%(事業費ベース)
- ・ 年平均進捗率 0.8%

	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(億円)	16	17	34
進捗率(%)	31	33	—
用地進捗率(%)	51	51	—

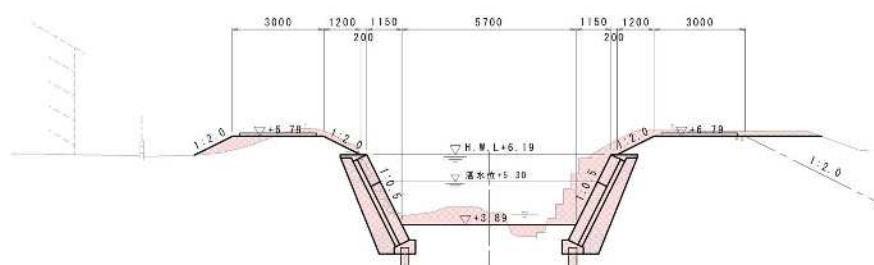
Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

12



整備の状況 [三本松川工区]

○標準横断面図



改修前



改修後

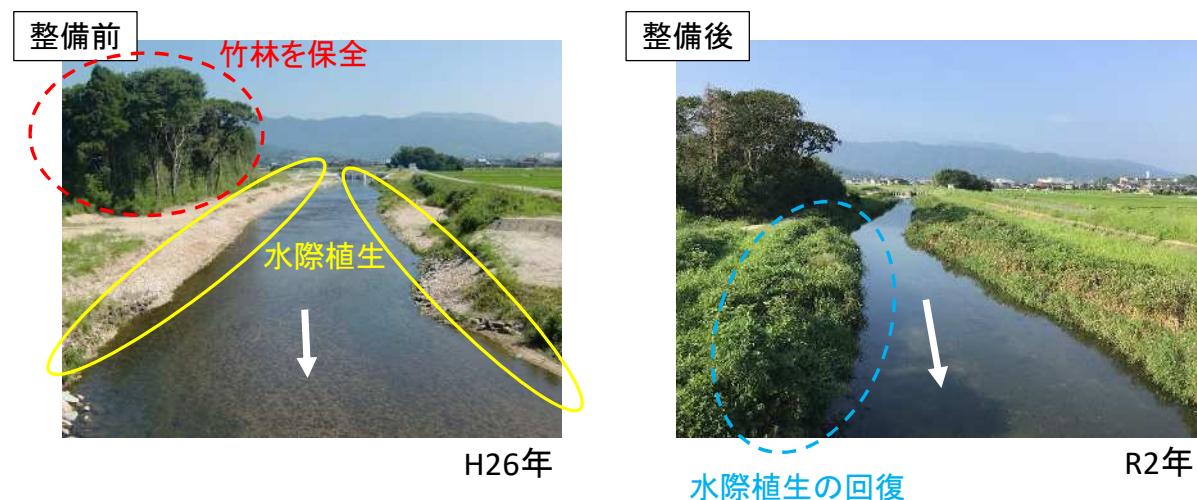


Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

13



環境に配慮した整備の実施[田手川]



○河川改修効果

- 事業個所に隣接する吉野ヶ里歴史公園を考慮し、緩傾斜の堤防や水際植生の保全などにより、生物環境及び景観に配慮した水辺空間を確保する。

過去の被害



《昭和28年6月 出水状況》

昭和28年6月(集中豪雨)
浸水面積: 2,350ha
床上浸水戸数: 990戸
床下浸水戸数: 1,550戸



《昭和47年6月 出水状況》



《昭和57年7月 出水状況》



平成2年7月豪雨
浸水面積: 3390ha
浸水戸数: 487戸

《平成2年7月 出水状況》



《平成21年7月 出水状況》



《令和5年7月 出水状況》

事業を巡る社会情勢等の変化

○地域の状況

- 近年の洪水により、浸水被害が発生している。
- 近年の洪水により、氾濫危険水位を超過しており、住民避難が生じている。
- 流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性は依然として高い。

費用対効果の要因の変化

B/Cは1.0を上回っている

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年間の総便益額

- | | |
|---------------------------|------------|
| • 一般資産被害額 | (家屋, 事業所等) |
| • 農作物被害 | (水稻, 畑作物等) |
| • 公共土木施設等災害被害 | (道路, 橋梁等) |
| • 間接被害(事業所の営業停止被害, 清掃費用等) | |
| • 残存価値 | |

○総費用C: 125,357百万円

○総便益B: 879,970百万円

●費用対効果 $B/C = 879,970 / 125,357 \div 7.0$

コスト縮減や代替案等の可能性

○コスト縮減

- 掘削土を埋戻に流用するなど建設副産物の有効活用を図り発生量を抑制する。
- 護岸の裏込材に再生クラッシャーランを使うなど再生材を積極的に使用する。
- 堰改築について、利用状況を踏まえて、地元調整のうえ、統廃合を検討する。

○代替案の検討

- 特になし

対応方針(事業課案)

- 田手川は、吉野ヶ里町、神崎市を流下し、筑後川に合流する河川で、吉野ヶ里町、神崎市の中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび流域に浸水被害が発生している。本事業は、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。
- 費用対効果についても、 $B/C=1.0$ 以上(7.0)が確保されている事業である。
- 事業進捗率は、事業費ベースで約72%[264億/367億](R4末時点)であり、用地進捗率は約76%となっている。
- 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況に変化はなく、事業の必要性は依然として高い。
- よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。

令和５年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

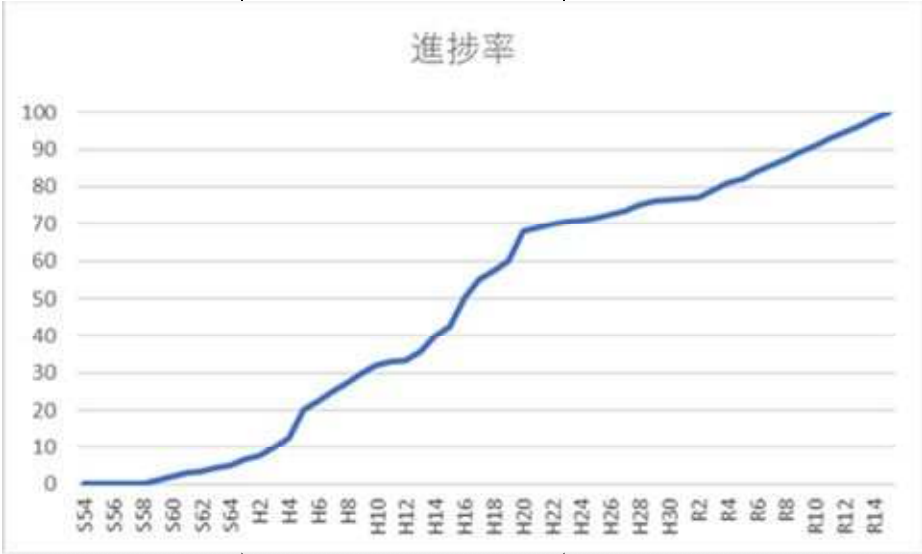
(課名：河川砂防課)

事業名 (路河川等名)	河川整備交付金事業（広域河川改修事業） （寒水川（寒水川・通瀬川））
継続中止理由	○ 寒水川はみやき町を流下し、筑後川に合流する河川で、みやき町の中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび流域に浸水被害が発生している。このため、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。 ○ 費用対効果についても、$B/C=1.0$ 以上（6.6）が確保されている事業である。 ○ 事業進捗率は、事業費ベースで約 81% [131 億/161 億]（R4 末時点）であり、用地進捗率は約 86%となっている。 ○ 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況に変化はなく、事業の必要性は依然として高い。 ○ よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。
B／Cの 算出方法	総便益（B）は河川改修による年平均被害軽減額を対象期間分合計したもの。 総費用（C）は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分合計したもの。 （※対象期間＝整備期間＋施設完成後 50 年間。） 総便益額（現在価値化した総便益） $B = 352,121$ 百万円 総費用額（現在価値化した総費用） $C = 53,417$ 百万円 $B / C = 352,121 / 53,417 = 6.6$
備考	

令和5年度再評価対象箇所

(再評価実施後、一定期間（5年）が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業）

(対象：平成30年度再評価実施箇所)

番 号	項 目	事 業 名 (路・河川名等)	事 業 目 的	事 業 概 要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情 勢 等 の 変 化	費用対効果 の要因の変化	コスト縮減や代替案 等 の 可 能 性	再評価理由	対応方針 (事業継続)
	再評価 時点 H30	寒水川 (寒水川・通瀬川) 河川整備交付金 事業（広域河川 改修事業）	流路是正、狭窄部解消を行 い、治水安全度を向上し、 流域の浸水被害の軽減を 図る。 (寒水川) 計画流量 160m3/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=161億円 工 期：S54～H45 (R15) 改 修 延 長：L=7, 575m 事業内容： 掘削・築堤護岸 排水機場1箇所 橋梁15基、堰13基	・寒水川は、排水機場 (Q=18m3/s)がH10に完 成、H22に下流放水路区 間の通水を開始してい る。現在、西尾橋の改 築工事を進めている。 ・通瀬川は、河床掘削 を残し改修が概成して いる。現在、下流より 河床掘削工事を進めて いる。 ・橋梁12基が完成 (H29末進捗率 76%) (年平均進捗率 2.0%)	(過去の災害実績) ・H2. 7 浸水戸数 454戸 浸水面積 720ha ・H13. 7 (破堤) 浸水戸数 6戸 浸水面積 59ha (地域の状況) 河川周辺の町道について、道路 拡幅事業が進められている。	最新のマニユ アルに基づき、費用 対効果 (B/C) を 算出した。 B/C＝3. 1	・再生材の積極的 利用 ・建設副産物の有 効利用	再評価実施後 5 年が経過	平成2年、平成 13年等の洪水 被害を軽減す るため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。
	現時点 R5	寒水川 (寒水川・通瀬川) 河川整備交付金 事業（広域河川 改修事業）	流路是正、狭窄部解消を行 い、治水安全度を向上し、 流域の浸水被害の軽減を 図る。 (寒水川) 計画流量 160m3/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=161億円 工 期：S54～R15 改 修 延 長：L=7, 575m 事業内容： 掘削・築堤護岸 排水機場1箇所 橋梁15基、堰13基	・寒水川は、排水機場 (Q=18m3/s)がH10に完 成、H22に下流放水路区 間の通水を開始してい る。現在、西尾橋及び 大井手堰の改築が完了 し、西尾橋上流の護岸 工事を進めている。 ・通瀬川は、河床掘削 を残し概成している。 現在、江口北橋下流部 の河床掘削工事を進め ている。 ・橋梁13基が完成 (R4末進捗率 81%) (年平均進捗率 1.4%)	(過去の災害実績) 同上 (地域の状況) 流域内の家屋や事業所等の 状況は、ほぼ変化ない。	最新のマニユ アルに基づき、費用 対効果 (B/C) を 算出した。 B/C＝6. 6	同上	再評価実施後 5 年が経過	平成2年、平成 13年等の洪水 被害を軽減す るため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。
	理由等						マニュアル更新 に伴い、Bが増大 し、費用対効果の 増となった。			

筑後川水系寒水川 河川整備交付金事業 (広域河川改修事業)

みやき町 (再評価実施後5年が経過)



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



位置図



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生

- 平成2年7月洪水 浸水戸数 454戸
浸水面積 720ha

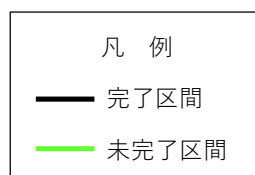
○浸水被害の軽減を図る

流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。

- 計画流量 : 160m³/s
- 計画治水安全度: 1/50

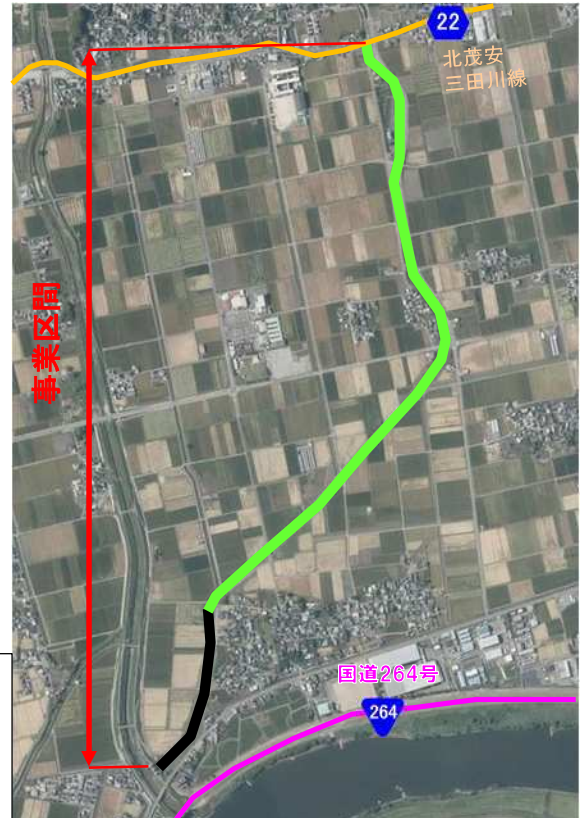
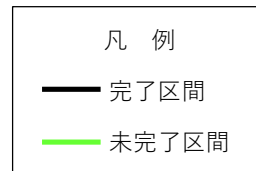
事業概要 [寒水川工区]

- 全体事業費: 138億円
- 事業期間: S54～R15
- 改修延長: 4,875m
- 計画流量: 160m³/s
- 計画治水安全度: 1/50
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 L=4,875m
 - ◆ 橋梁 N=8橋
 - ◆ 堰 N=10基



事業概要 [通瀬川工区]

- 全体事業費: 23億百万円
- 事業期間: S61~R15
- 改修延長: 2,700m
- 計画流量: 70m³/s
- 計画治水安全度: 1/10
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 L=2,700m
 - ◆ 橋梁 N=7橋
 - ◆ 堰 N=3基



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

4

事業概要

		前回再評価時 (H30)	今回再評価時 (R5)
全体事業費		161億円	161億円
事業期間		S54~H45(R15)	S54~R15
改修延長		7,575m	7,575m
計画流量		160m ³ /s	160m ³ /s
計画治水安全度		1/50	1/50
事業内容	掘削・築堤・護岸等	7,575m	7,575m
	橋梁	15橋	15橋
	堰	13基	13基
	水門	—	—
	その他	—	—
費用対効果		3.1	6.6

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

-57-

5

事業進捗状況



○事業進捗状況

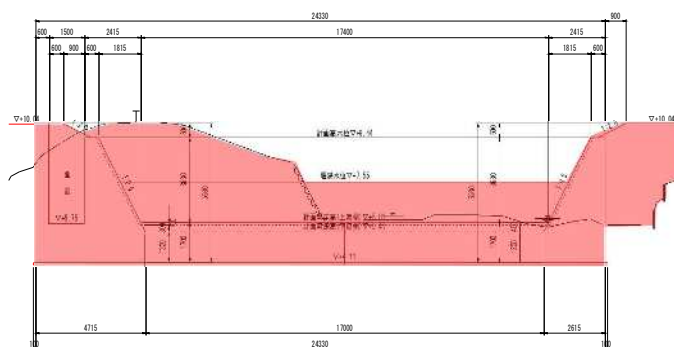
- ・ (寒水川) 西尾橋まで整備が完了し、大井手堰の堰改築も完了
- ・ (通瀬川) 江口北橋下流まで整備完了
- ・ R4年度末進捗率 81% (事業費ベース)
- ・ 年平均進捗率 1.4%

	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費 (億円)	131	132	29
進捗率 (%)	81	82	—
用地進捗率 (%)	86	87	—

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



整備の状況(寒水川)



改修前



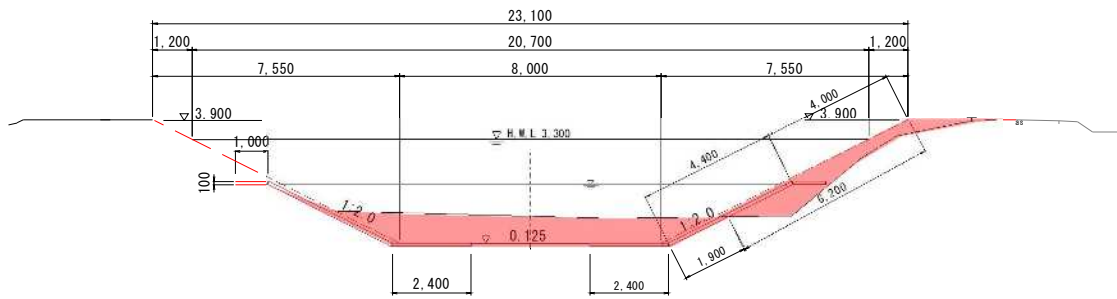
改修後



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



整備の状況(通瀬川)



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

8

環境に配慮した整備の実施[寒水川]

<1号橋下流区間>



<土井手堰上流区間>



○河川改修効果

- 河道内の水の流れ(滞筋)を緩やかな湾曲により創出し、自然的な水の流れを形成する。
- 環境型ブロックの使用や護岸に覆土することで植生の拡大を図る。

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

9

過去の被害

寒水川『平成13年7月11日～12日』
『梅雨前線豪雨』

連続雨量247mm
最大日雨量211mm
時間最大雨量50mm
(山田雨量観測所)



浸水家屋 6戸
農地浸水面積 59ha



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

10



近年の被害

通瀬川 平成30年7月6日

連続雨量:319mm 最大日雨量:314mm 時間最大雨量:45mm
(山田雨量観測所)



通瀬橋上流側
(左岸堤内地)



通瀬橋上流側
(左岸堤内地)

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

11



事業を巡る社会情勢等の変化

○地域の状況

- 近年の洪水により、浸水被害が発生している。
- 近年の洪水により、氾濫危険水位を超過しており、住民避難が生じている。
- 流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性は依然として高い。

費用対効果の要因の変化

B/Cは1.0を上回っている

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年間の総便益額

- | | |
|---------------------------|------------|
| • 一般資産被害額 | (家屋, 事業所等) |
| • 農作物被害 | (水稻, 畑作物等) |
| • 公共土木施設等災害被害 | (道路, 橋梁等) |
| • 間接被害(事業所の営業停止被害, 清掃費用等) | |
| • 残存価値 | |

○総費用C: 53,417百万円

○総便益B: 352,121百万円

●費用対効果

$$B/C = 352,121 \text{ 百万円} / 53,417 \text{ 百万円} \div 6.6$$

コスト縮減や代替案等の可能性

○コスト縮減

- 寄せ石工に現地発生石材や近隣他工事で発生した石材を使用する。また、掘削土を埋戻や覆土に流用するなど建設副産物の有効活用を図り発生量を抑制する。
- 護岸の裏込材に再生クラッシャーランを使うなど再生材を積極的に使用する。

○代替案の検討

- 特になし

対応方針

- 寒水川はみやき町を流下し、筑後川に合流する河川で、みやき町の中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび流域に浸水被害が発生している。このため、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。
- 費用対効果についても、 $B/C=1.0$ 以上(6.6)が確保されている事業である。
- 事業進捗率は、事業費ベースで約81%[131億/161億](R4末時点)であり、用地進捗率は約86%となっている。
- 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況に変化はなく、事業の必要性は依然として高い。
- よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。

令和 5 年度公共事業再評価諮問地区「継続・中止」理由書等

(課名： 河川砂防課)

事業名 (路河川等名)	河川整備交付金事業 (広域河川改修事業) (切通川)
継続・中止理由	○ 切通川は、上峰町、みやき町、神埼市を流下し、筑後川に合流する河川で、上峰町、みやき町の中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび浸水被害をもたらしてきた。本事業は、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。 ○ 費用対効果についても、$B/C=1.0$ 以上 (19.6) が確保されている事業である。 ○ 事業進捗率は、事業費ベースで約 87%[約 113 億/130 億] (R4 末時点) であり、用地進捗率は約 91%となっている。 ○ 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。また、流域内の家屋や事業所等の状況に変化はなく、事業の必要性は依然として高い。 ○ よって、当事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。
B/C の 算出方法	総便益 (B) は河川改修による年平均被害軽減額を対象期間分合計したもの。 総費用 (C) は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分合計したもの。 (※対象期間＝整備期間＋施設完成後 50 年間。) 総便益額 (現在価値化した総便益) $B = 997,213$ 百万円 総費用額 (現在価値化した総費用) $C = 51,001$ 百万円 $B/C = 997,213 / 51,001 = 19.6$
備考	

令和 5 年度再評価対象事業

(再評価実施後、一定期間（5年）が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業）

(対象：平成 3 0 年度再評価実施事業)

番号	項目	事業名 (路・河川名等)	事業目的	事業概要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済情勢等の変化	費用対効果 の要因の変化	コスト削減や代替案 等の可能性	再評価理由	対応方針 (事業継続)																																																																																													
	再評価 時点 H30	切通川 河川整備交付金 事業 (広域河川改修 事業)	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。 計画流量 190 m³/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=130億円 工期：S50～H45(R15) 改修延長：L=11,200 m 事業内容： 掘削・築堤、護岸、 樋管46基、橋梁14基、 堰8基	用地買収については、 上流部を残しほぼ完了している。 下流部及び中流部の改修は暫定計画断面で概成し、上流部の改修促進を図っているところである。 橋梁10橋、堰3基完成 (H29末進捗率 85%) (年平均進捗率 2.0%)	(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 127戸 浸水面積 270ha (地域の状況) S54以降、下流から上流にかけて圃場整備が行われ、H8に完了している。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果（B/C）を算出した。 （B/C）＝8.0	・再生材の積極的利用 ・発生残土を他事業（道路整備、河川改修）に有効利用 ・堰改築については、統廃合の可能性について地元と調整している。	再評価実施後5年が経過	昭和47年、平成2年等の洪水被害を軽減するため、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。																																																																																													
	現時点 R 5	切通川 河川整備交付金 事業 (広域河川改修 事業)	流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。 計画流量 190 m³/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=130億円 工期：S50～R15 改修延長：L=11,200 m 事業内容： 掘削・築堤、護岸、 樋管46基、橋梁14基、 堰8基	用地買収については、 上流部を残しほぼ完了している。 下流部及び中流部の改修は暫定計画断面で概成し、これより上流部の改修促進を図っていく。 橋梁11橋、堰3基完成 (R4末進捗率 87%) (年平均進捗率 1.8%)	(過去の災害実績) 同上 (地域の状況) 流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化はない。	最新のマニュアルに基づき、費用対効果（B/C）を算出した。 （B/C）＝19.6	同上	同上	昭和47年、平成2年等の洪水被害を軽減するため、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、地域住民の安心・安全を確保するためには、当事業の継続が必要である。																																																																																													
	理由等	(変更なし)	(変更なし)	(変更なし)	(変更なし)	事業進捗率（事業費ベース） <table border="1"><caption>事業進捗率（事業費ベース）データ（推定）</caption><thead><tr><th>年度</th><th>H30再評価時 (%)</th><th>R5再評価時点 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>S50</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S51</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>S53</td><td>5</td><td>10</td></tr><tr><td>S55</td><td>10</td><td>15</td></tr><tr><td>S57</td><td>15</td><td>20</td></tr><tr><td>S59</td><td>20</td><td>25</td></tr><tr><td>S61</td><td>25</td><td>30</td></tr><tr><td>S63</td><td>30</td><td>35</td></tr><tr><td>H2</td><td>35</td><td>40</td></tr><tr><td>H4</td><td>40</td><td>45</td></tr><tr><td>H6</td><td>45</td><td>50</td></tr><tr><td>H8</td><td>50</td><td>55</td></tr><tr><td>H10</td><td>55</td><td>60</td></tr><tr><td>H12</td><td>60</td><td>65</td></tr><tr><td>H14</td><td>65</td><td>70</td></tr><tr><td>H16</td><td>70</td><td>75</td></tr><tr><td>H18</td><td>75</td><td>80</td></tr><tr><td>H20</td><td>78</td><td>82</td></tr><tr><td>H22</td><td>80</td><td>84</td></tr><tr><td>H24</td><td>82</td><td>86</td></tr><tr><td>H26</td><td>84</td><td>88</td></tr><tr><td>H28</td><td>86</td><td>90</td></tr><tr><td>H30</td><td>88</td><td>92</td></tr><tr><td>R2</td><td>90</td><td>94</td></tr><tr><td>R4</td><td>92</td><td>96</td></tr><tr><td>R6</td><td>94</td><td>98</td></tr><tr><td>R8</td><td>96</td><td>99</td></tr><tr><td>R10</td><td>98</td><td>100</td></tr><tr><td>R12</td><td>100</td><td>100</td></tr><tr><td>R14</td><td>100</td><td>100</td></tr></tbody></table>		年度	H30再評価時 (%)	R5再評価時点 (%)	S50	0	0	S51	0	0	S53	5	10	S55	10	15	S57	15	20	S59	20	25	S61	25	30	S63	30	35	H2	35	40	H4	40	45	H6	45	50	H8	50	55	H10	55	60	H12	60	65	H14	65	70	H16	70	75	H18	75	80	H20	78	82	H22	80	84	H24	82	86	H26	84	88	H28	86	90	H30	88	92	R2	90	94	R4	92	96	R6	94	98	R8	96	99	R10	98	100	R12	100	100	R14	100	100	マニュアルの更新に伴い、公共土木施設等被害額の増によりBが増大し、費用対効果の増となった。	(変更なし)	(変更なし)
年度	H30再評価時 (%)	R5再評価時点 (%)																																																																																																					
S50	0	0																																																																																																					
S51	0	0																																																																																																					
S53	5	10																																																																																																					
S55	10	15																																																																																																					
S57	15	20																																																																																																					
S59	20	25																																																																																																					
S61	25	30																																																																																																					
S63	30	35																																																																																																					
H2	35	40																																																																																																					
H4	40	45																																																																																																					
H6	45	50																																																																																																					
H8	50	55																																																																																																					
H10	55	60																																																																																																					
H12	60	65																																																																																																					
H14	65	70																																																																																																					
H16	70	75																																																																																																					
H18	75	80																																																																																																					
H20	78	82																																																																																																					
H22	80	84																																																																																																					
H24	82	86																																																																																																					
H26	84	88																																																																																																					
H28	86	90																																																																																																					
H30	88	92																																																																																																					
R2	90	94																																																																																																					
R4	92	96																																																																																																					
R6	94	98																																																																																																					
R8	96	99																																																																																																					
R10	98	100																																																																																																					
R12	100	100																																																																																																					
R14	100	100																																																																																																					

筑後川水系切通川 河川整備交付金事業 (広域河川改修事業)

神崎市、上峰町、みやき町

(再評価実施後5年が経過)

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



位置図



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



事業概要

		前回再評価時 (H30)	今回再評価時 (R5)
全体事業費		130 億円	130 億円
事業期間		S50～H45(R15)	S50～R15
改修延長		11,200 m	11,200 m
計画流量		190 m ³ /s	190 m ³ /s
計画治水安全度		1/50	1/50
事業内容	掘削・築堤・護岸等	11,200 m	11,200 m
	橋梁	14橋	14橋
	堰	8基	8基
	樋管	46基	46基
	その他	—	—
費用対効果		8.0	19.6

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



事業進捗状況



○事業進捗状況

- ・中津隈橋上流までの約9.2kmにおいて、整備が完了
- ・R4年度進捗率 87%(事業費ベース)
- ・年平均進捗率1. 8%

	令和4年度迄	令和5年度迄	令和6年度以降
事業費(億円)	113	114	16
進捗率(%)	87	88	—
用地進捗率(%)	91	91	—

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



整備の状況

く ち ょ う ぶ ん は し
【九丁分橋】 ～上流左岸から望む～



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

6

環境に配慮した整備の状況

～舞郷橋から下流を望む～



～舞郷橋から上流の魚道を望む～



○河川改修効果

- 河川幅を拡げることで、これまで狭く、単調だった流れに自然な蛇行が生まれ、瀬と淵が創り出されており、水生生物の良好な生息環境になっている。またそれらを餌とする鳥類等も確認されている。
- 水際には寄せ石を配置することで、洪水時等の小魚の隠れ場所となる。
- 堰など魚の遡行が妨げられる箇所で、遡行を助けるために魚道を設けている。

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

7

過去の被害

平成9年7月7日~8日(梅雨前線豪雨)切通川

切通川 北茂安町中津隈



みやき町中津隈



(国道264号より上流)

(鳥栖土木事務所雨量観測所)

最大日雨量: 143mm

時間最大雨量: 27mm



県道北茂安三田川線(中津隈橋)
(みやき町中津隈)

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

過去の被害

平成14年9月16日~17日(秋雨前線豪雨)切通川



(鳥栖土木事務所雨量観測所)

最大日雨量: 165mm (同観測所既往第5位)

時間最大雨量: 63mm (同観測所既往第2位)



切通川 決壊状況

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

近年の被害

令和5月7日(梅雨前線豪雨)切通川

(東部土木事務所雨量観測所【西寄橋地点】)

最大日雨量 : 192mm

時間最大雨量: 54mm



県道北茂安三田川線(切通川近接箇所)
(上峰町坊所)

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

10 

事業を巡る社会情勢等の変化

○地域の状況

- 近年の洪水により、浸水被害が発生している。
- 近年の洪水により、氾濫危険水位を超過しており、住民避難が生じている。
- 流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性は依然として高い。

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

11 

費用対効果(B/C)

B/Cは1.0を上回っている

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年間の総便益額

- ・一般資産被害(家屋、事業所等)
- ・農作物被害(水稻、畑作物等)
- ・公共土木施設等災害被害(道路、橋梁等)
- ・間接被害(事業所の営業停止被害、清掃費用等)
- ・残存価値

○総費用C : 51,001百万円

○総便益B : 997,213百万円

●費用対効果 $B/C = 997,213 / 51,001 = 19.6$

コスト縮減や代替案等の可能性

【コスト縮減】

- ・ 寄せ石に現地発生石材や近隣他工事で発生した石材を使用する。また、掘削土を埋戻に流用するなど建設副産物の有効活用を図り発生量を抑制する。
- ・ 護岸の裏込材に再生クラッシャーランを使うなど再生材を積極的に使用する。

【代替案の検討】

- ・ 特になし

対応方針(事業課案)

- 切通川は、上峰町、みやき町、神埼市を流下し、筑後川に合流する河川で、上峰町、みやき町の中心部に近いことから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび浸水被害をもたらしてきた。本事業は、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。
- 費用対効果についても、 $B/C=1.0$ 以上(19.6)が確保されている事業である。
- 事業進捗率は、事業費ベースで約87%[約113億/130億](R4末時点)であり、用地進捗率は約91%となっている。
- 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。また、流域内の家屋や事業所等の状況に変化はなく、事業の必要性は依然として高い。
- よって、当事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。



令和５年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名：河川砂防課)

事業名 (路河川等名)	河川整備交付金事業（総合流域防災事業） (佐志川)
継続中止理由	○ 佐志川は唐津市西部を流下し、唐津湾に注ぐ河川で、付近には国道 204 号、国道 204 号バイパスがあり、下流には住宅街もあることから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび浸水被害が発生している。本事業は、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。 ○ 費用対効果についても、$B/C=1.0$ 以上 (4.8) が確保されている事業である。 ○ 事業進捗率は、事業費ベースで約 71% [42.0 億/58.8 億] (R4 末時点) であり、用地新緑率は約 100%となっている。 ○ 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況はほぼ変化はなく、事業の必要性は依然として高い。 ○ よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。
B／Cの 算出方法	総便益（B）は河川改修による年平均被害軽減額を対象期間分合計したもの。 総費用（C）は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分合計したもの。 （※対象期間＝整備期間＋施設完成後 50 年間。） 総便益額（現在価値化した総便益） $B = 65,682$ 百万円 総費用額（現在価値化した総費用） $C = 13,601$ 百万円 $B/C = 65,682 / 13,601 = 4.8$
備考	

令和 5 年度再評価対象箇所

(再評価実施後、一定期間（5年）が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業）

(対象：平成 3 0 年度再評価実施箇所)

番 号	項 目	事 業 名 (路・河川名等)	事 業 目 的	事 業 概 要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情 勢 等 の 変 化	費用対効果 の要因の変化	コスト削減や代替案 等 の 可 能 性	再評価理由	対応方針 (事業継続)																																																																												
	再評価 時点 H30	佐志川 河川整備交付金 事業 (総合流域防災 事業)	流路是正、狭窄部解消を行 い、治水安全度を向上し、 流域の浸水被害の軽減を 図る。 ・計画流量 150m³/s ・計画治水安全度 1/30	全体事業費：C=48.0億円 工 期：S58～H35 (R5) 改 修 延 長：L=2,900m 事業内容：掘削・築堤 護岸、樋管14基、橋梁 6基、堰2基	総原頭首工下流まで 暫定掘削、暫定築堤、 護岸が完了している。 佐志橋他5基完成 (H29末進捗率 87%) (年平均進捗率2.6%)	(過去の災害実績) S60.6 浸水戸数 189戸 浸水面積 20ha (地域の状況) 特になし	最新のマニュアルに基 づき、費用対効果を 算出した。 (B/C) = 4.3	・再生材の積極的 利用 ・建設副産物の有 効利用	再評価実施後 5 年が経過	昭和60年洪水 被害を軽減す るため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。																																																																												
	現時点 R5	佐志川 河川整備交付金 事業 (総合流域防災 事業)	流路是正、狭窄部解消を行 い、治水安全度を向上し、 流域の浸水被害の軽減を 図る。 ・計画流量 150m³/s ・計画治水安全度 1/30	全体事業費：C=58.8億円 工 期：S58～R15 改 修 延 長：L=2,900m 事業内容：掘削・築堤 護岸、樋管14基、橋梁 6基、堰2基	総原頭首工下流まで 暫定整備が完了してい る。 佐志橋他5基完成 (R4末進捗率 71%) (年平均進捗率1.9%)	(過去の災害実績) 同上 (地域の状況) 流域内の家屋や事業所等の 状況は、ほぼ変化はない。	最新のマニュアルに基 づき、費用対効果を 算出した。 (B/C) = 4.8	同上	再評価実施後 5 年が経過	昭和60年洪水 被害を軽減す るため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。																																																																												
	理由等			・詳細調査に伴い、既 設護岸の根入れ不足が 判明したため、護岸の 追加による増 ・地質調査結果に伴い、 地盤に軟弱層が確認さ れたため、矢板基礎工 の追加による増 ・各種建設資材費の高 騰及び労務費の上昇に よる増 ・希少生物（アサクサ ノリ、シロウオ等）の 環境調査及び施工計画 検討に時間を要したこ とによる延長 ・希少生物の生態系に 配慮し、分割施工で工 事を実施する必要が生 じたことによる延長	事業進捗率 <table><caption>事業進捗率データ (推定)</caption><tr><th>事業年度</th><th>H30再評価時 (%)</th><th>R5再評価時 (%)</th></tr><tr><td>S60</td><td>0.0</td><td>0.0</td></tr><tr><td>S62</td><td>0.0</td><td>5.0</td></tr><tr><td>H1</td><td>0.0</td><td>10.0</td></tr><tr><td>H3</td><td>0.0</td><td>15.0</td></tr><tr><td>H5</td><td>0.0</td><td>18.0</td></tr><tr><td>H7</td><td>0.0</td><td>22.0</td></tr><tr><td>H9</td><td>0.0</td><td>28.0</td></tr><tr><td>H11</td><td>0.0</td><td>35.0</td></tr><tr><td>H13</td><td>0.0</td><td>45.0</td></tr><tr><td>H15</td><td>0.0</td><td>60.0</td></tr><tr><td>H17</td><td>0.0</td><td>75.0</td></tr><tr><td>H19</td><td>0.0</td><td>85.0</td></tr><tr><td>H21</td><td>0.0</td><td>90.0</td></tr><tr><td>H23</td><td>0.0</td><td>95.0</td></tr><tr><td>H25</td><td>0.0</td><td>98.0</td></tr><tr><td>H27</td><td>0.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>H29</td><td>0.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R1</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R3</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R5</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R7</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R9</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R11</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R13</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr><tr><td>R15</td><td>100.0</td><td>100.0</td></tr></table>	事業年度	H30再評価時 (%)	R5再評価時 (%)	S60	0.0	0.0	S62	0.0	5.0	H1	0.0	10.0	H3	0.0	15.0	H5	0.0	18.0	H7	0.0	22.0	H9	0.0	28.0	H11	0.0	35.0	H13	0.0	45.0	H15	0.0	60.0	H17	0.0	75.0	H19	0.0	85.0	H21	0.0	90.0	H23	0.0	95.0	H25	0.0	98.0	H27	0.0	100.0	H29	0.0	100.0	R1	100.0	100.0	R3	100.0	100.0	R5	100.0	100.0	R7	100.0	100.0	R9	100.0	100.0	R11	100.0	100.0	R13	100.0	100.0	R15	100.0	100.0	マニュアルの更 新に伴い、公共 土木施設等被害 額の増によりB が増大し、費用 対効果の増とな った		
事業年度	H30再評価時 (%)	R5再評価時 (%)																																																																																				
S60	0.0	0.0																																																																																				
S62	0.0	5.0																																																																																				
H1	0.0	10.0																																																																																				
H3	0.0	15.0																																																																																				
H5	0.0	18.0																																																																																				
H7	0.0	22.0																																																																																				
H9	0.0	28.0																																																																																				
H11	0.0	35.0																																																																																				
H13	0.0	45.0																																																																																				
H15	0.0	60.0																																																																																				
H17	0.0	75.0																																																																																				
H19	0.0	85.0																																																																																				
H21	0.0	90.0																																																																																				
H23	0.0	95.0																																																																																				
H25	0.0	98.0																																																																																				
H27	0.0	100.0																																																																																				
H29	0.0	100.0																																																																																				
R1	100.0	100.0																																																																																				
R3	100.0	100.0																																																																																				
R5	100.0	100.0																																																																																				
R7	100.0	100.0																																																																																				
R9	100.0	100.0																																																																																				
R11	100.0	100.0																																																																																				
R13	100.0	100.0																																																																																				
R15	100.0	100.0																																																																																				

佐志川水系佐志川 河川整備交付金事業 (総合流域防災事業)

唐津市

(再評価実施後5年が経過)



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



位置図



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生

- 昭和60年6月洪水 浸水戸数 189戸
浸水面積 20ha

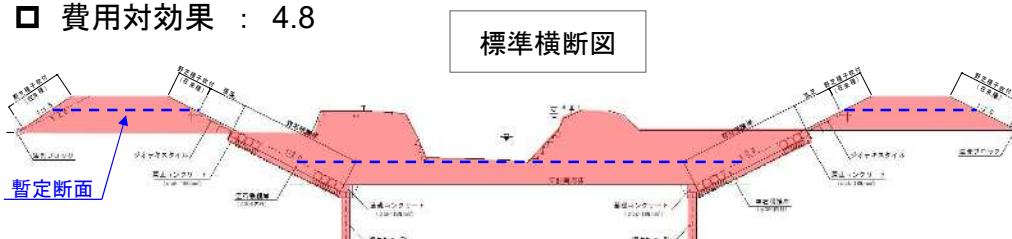
○浸水被害の軽減を図る

流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。

- 計画流量 : $150\text{m}^3/\text{s}$
- 計画治水安全度: 1/30

事業概要 [佐志川工区]

- 全体事業費 : 58.8億円
- 事業期間 : S58~R15
- 改修延長 : 2,900m
- 計画流量 : $150\text{m}^3/\text{s}$
- 計画治水安全度 : 1/30
- 実施内容
 - ◆ 掘削・築堤・護岸 L=2,900m
 - ◆ 橋梁 N = 6橋
 - ◆ 堰 N = 2基
 - ◆ 樋管 N = 14基
- 費用対効果 : 4.8



事業概要

		前回再評価時 (H30)	今回再評価時 (R5)
全体事業費		48.0 億円	58.8 億円
事業期間		S58～H35(R5)	S58～R15
改修延長		2,900m	2,900m
計画流量		150m ³ /s	150m ³ /s
計画治水安全度		1/30	1/30
事業 内容	掘削・築堤・護岸等	2,900m	2,900m
	橋梁	6橋	6橋
	堰	2基	2基
	樋管	14基	14基
費用対効果		4.3	4.8

事業内容の見直し理由

○事業費の増額

- ・ 詳細調査に伴い、既設護岸の根入れ不足が判明したため、護岸の追加による増
- ・ 地質調査結果に伴い、地盤に軟弱層が確認されたため、矢板基礎工の追加による増
- ・ 各種建設資材費の高騰及び労務費の上昇による増

事業期間の見直し理由

○事業期間の延長

- ・希少生物(アサクサノリ、シロウオ等)の環境調査及び施工計画検討に時間を要したことによる延長
- ・希少生物の生態系に配慮し、分割施工で工事を実施する必要が生じたことによる延長

事業進捗状況



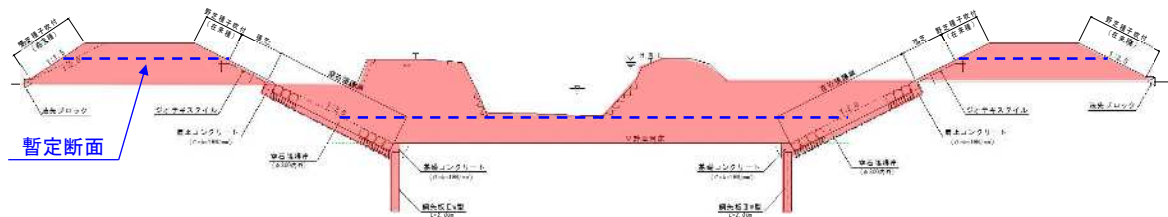
○事業進捗状況

- ・総原頭首工下流まで暫定(1/10)整備完了
- ・R4年度末進捗率 71%(事業費ベース)
- ・年平均進捗率 1.9%

	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(億円)	42.0	42.1	16.7
進捗率(%)	71	72	—
用地進捗率(%)	100	100	—

整備の状況

○標準横断面図



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

8



環境に配慮した整備の実施

○弥右衛門橋上流



堰の魚道



○河川改修効果

- ◆河川環境への影響が生じないように、低水路形状の維持や植生護岸とするなど、生物や景観に配慮した整備。
 - ・河道内の水の流れ(滞筋)を緩やかな湾曲により創出し、自然的な水の流れを形成
 - ・現況の自然環境を活かし、水際部の植生を存置
- ◆河川を行き来する魚類等に対して、河川縦断方向の連続性の確保。
 - ・魚道の設置

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



過去の被害

昭和60年6月豪雨

日雨量281mm 時間最大雨量65mm



浸水戸数 189戸 浸水面積 20ha

近年の降雨

令和5年7月豪雨

日雨量126mm 時間最大雨量54mm



事業を巡る社会情勢等の変化

○地域の状況

- 改修事業に着手している現在においても、近年の洪水により堤防高付近まで水位が上昇しており、地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。
- また、流域内の家屋や事業所等の状況に変化はなく、事業の必要性は依然として高い。

費用対効果の要因の変化

B/Cは1.0を上回っている

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年間の総便益額

- | | |
|---------------------------|------------|
| • 一般資産被害額 | (家屋, 事業所等) |
| • 農作物被害 | (水稻, 畑作物等) |
| • 公共土木施設等災害被害 | (道路, 橋梁等) |
| • 間接被害(事業所の営業停止被害, 清掃費用等) | |
| • 残存価値 | |

○総費用C: 13,601百万円

○総便益B: 65,682百万円

●費用対効果 $B/C = 65,682 / 13,601 \div 4.8$

コスト縮減や代替案等の可能性

○コスト縮減

- 掘削土を埋戻に流用するなど建設副産物の有効活用を図り発生量を抑制する。
- 護岸の裏込材に再生クラッシャーランを使うなど再生材を積極的に使用する。

○代替案の検討

- 特になし

対応方針(事業課案)

- 佐志川は唐津市西部を流下し、唐津湾に注ぐ河川で、付近には国道204号、国道204号バイパスがあり、下流には住宅街もあることから、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび浸水被害が発生している。本事業は、流路是正及び狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。
- 費用対効果についても、 $B/C=1.0$ 以上(4.8)が確保されている事業である。
- 事業進捗率は、事業費ベースで約71%[42.0億/58.8億](R4末時点)であり、用地進捗率は100%となっている。
- 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。また、流域内の家屋や事業所等の状況はほぼ変化はなく、事業の必要性は依然として高い。
- よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。

令和５年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

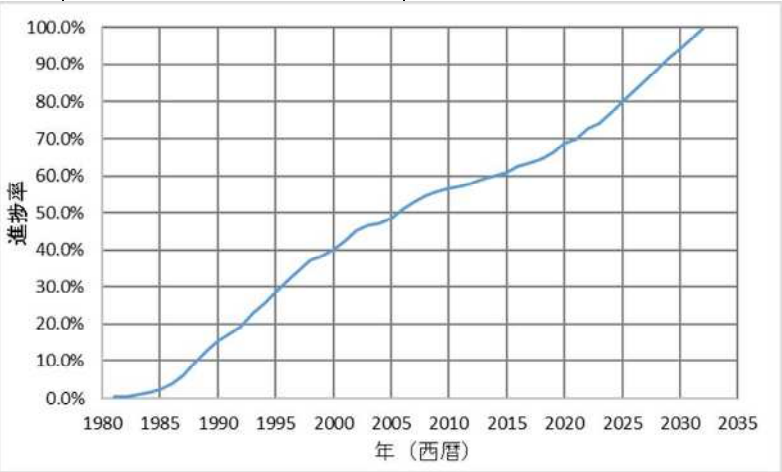
(課名：河川砂防課)

事業名 (路河川等名)	河川整備交付金事業（総合流域防災事業） (浜川)
継続中止理由	○ 浜川は、鹿島市を流下し、有明海に注ぐ河川であり、付近には国道 207 号があり、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足による浸水被害がたびたび発生している。本事業は、河道改修を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。 ○ 費用対効果についても、$B/C=1.0$ 以上 (16.5) が確保されている事業である。 ○ 事業進捗率は、事業費ベースで約 73% [59.6 億/82.0 億] (R4 末時点) であり、用地進捗率は約 59%となっている。 ○ 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化はなく、事業の必要性は依然として高い。 ○ よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。
B / C の 算出方法	総便益 (B) は河川改修による年平均被害軽減額を対象期間分合計したもの。 総費用 (C) は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分合計したもの。 (※対象期間＝整備期間＋施設完成後 50 年間。) 総便益額 (現在価値化した総便益) $B = 373,685$ 百万円 総費用額 (現在価値化した総費用) $C = 22,607$ 百万円 $B / C = 373,685 \text{ 百万円} / 22,607 \text{ 百万円} = 16.5$
備考	

令和 5 年度再評価対象箇所

(再評価実施後、一定期間（5年）が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業）

(対象：平成 3 0 年度再評価実施箇所)

番 号	項 目	事 業 名 (路・河川名等)	事 業 目 的	事 業 概 要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情 勢 等 の 変 化	費用対効果 の要因の変化	コスト削減や代替案 等 の 可 能 性	再評価理由	対応方針 (事業継続)
	再評価 時点 H30	浜川 河川整備交付金 事業 (総合流域防災 事業)	流路是正、狭窄部解消を 行い、治水安全度を向上 し、流域の浸水被害の軽 減を図る。 計画流量 280m³/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=82.0億円 工 期：S56～H44 (R14) 改 修 延 長：L=3,330m 事業内容：掘削・築堤・ 護岸、橋梁7基、堰11基	国道207号バイパスの古 場切橋まで完成してい る。今後、これより上流 の用地買収の促進や工 事進捗を図っていく。 (H29末進捗率 63%) (年平均進捗率 1.7%)	(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 285戸 浸水面積 110ha (地域の状況) 特になし	最新のマニュ アル(H17)に基づ き、費用対効果を 算出した。 (B/C) =13.8	・再生材の積極的 利用 ・建設副産物の有 効利用	再評価実施後 5 年が経過	過去の浸水被 害を軽減する ため、河道改修 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。
	現時点 R5	浜川 河川整備交付金 事業 (総合流域防災 事業)	流路是正、狭窄部解消を 行い、治水安全度を向上 し、流域の浸水被害の軽 減を図る。 計画流量 280m³/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=82.0億円 工 期：S56～R14 改 修 延 長：L=3,330m 事業内容：掘削・築堤・ 護岸、橋梁7基、堰11基	山下頭首工付近（国道 207号バイパスの古場切 橋上流約600m）まで完 成している。今後、これ より上流の用地買収の 促進や工事進捗を図っ ていく。 (R4末進捗率 73%) (年平均進捗率 1.7%)	(過去の災害実績) R2.7 床上浸水 4戸 床下浸水 34戸 浸水面積 19ha (地域の状況) 流域内の家屋や事業所等の状 況は、ほぼ変化ない。	最新のマニュ アル(R2)に基づき、 費用対効果を算 出した。 (B/C) =16.5	同上	再評価実施後 5 年が経過	過去の浸水被 害を軽減する ため、河道改修 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するためには、 当事業の継続 が必要である。
	理由等						マニュアルの更 新に伴いBが増 大し、費用対効果 の増となった。			

浜川水系浜川 河川整備交付金事業 (総合流域防災事業)

鹿島市

(再評価実施後5年が経過)

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



位置図



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生

- 平成2年7月洪水 浸水戸数 285戸
浸水面積 110ha

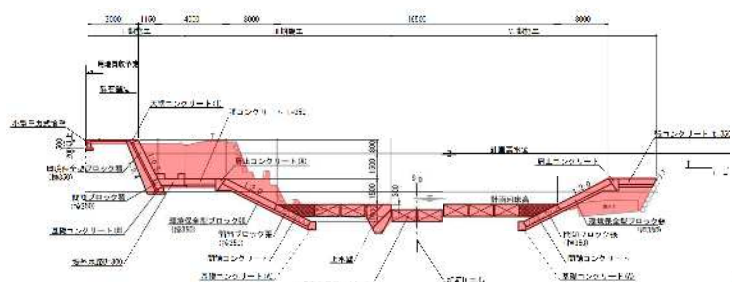
○浸水被害の軽減を図る

流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。

- 計画流量 : $280\text{m}^3/\text{s}$
- 計画治水安全度: 1/50

事業概要

- 全体事業費: 82.0億円
- 事業期間: S56~R14
- 改修延長: 3,330m
- 計画流量: $280\text{m}^3/\text{s}$
- 計画治水安全度: 1/50
- 実施内容
 - ◆ 掘削・護岸 L=3,330m
 - ◆ 橋梁 N=7橋
 - ◆ 堰 N=11基
- 費用対効果: 16.5



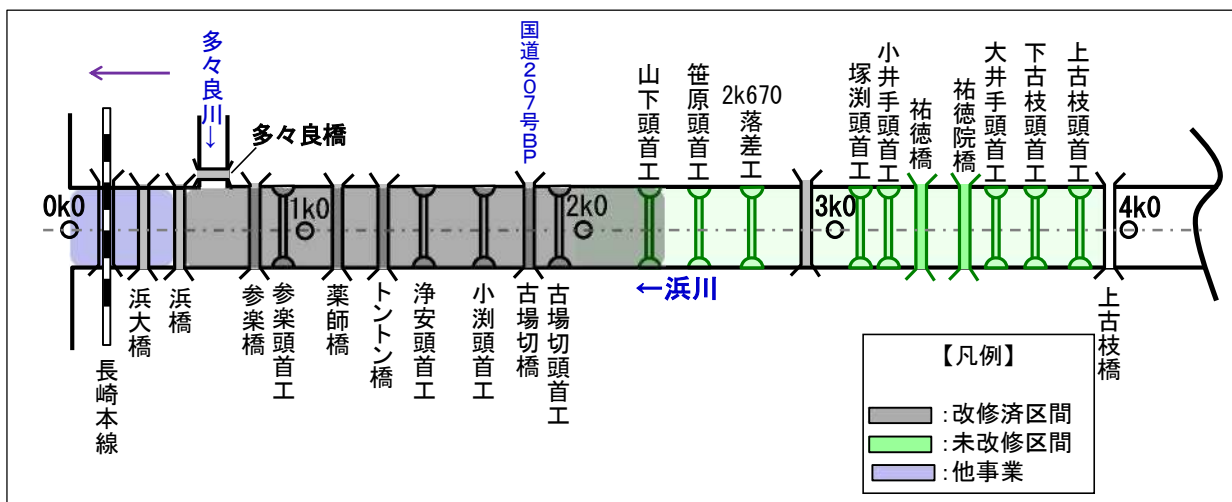
事業概要

		前回再評価時 (H30)	今回再評価時 (R5)
全体事業費		82.0 億円	82.0 億円
事業期間		S56～H44(R14)	S56～R14
改修延長		3,330m	3,330m
計画流量		280m ³ /s	280m ³ /s
計画治水安全度		1/50	1/50
事業内容	掘削・築堤・護岸等	3,330m	3,330m
	橋梁	7橋	7橋
	堰	11基	11基
	水門	—	—
	その他	—	—
費用対効果		13.8	16.5

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

4

事業進捗状況



○事業進捗状況

- 山下頭首工付近(古場切橋上流約600m)まで整備が完了
- R4年度末進捗率 73%(事業費ベース)
- 年平均進捗率 1.7%

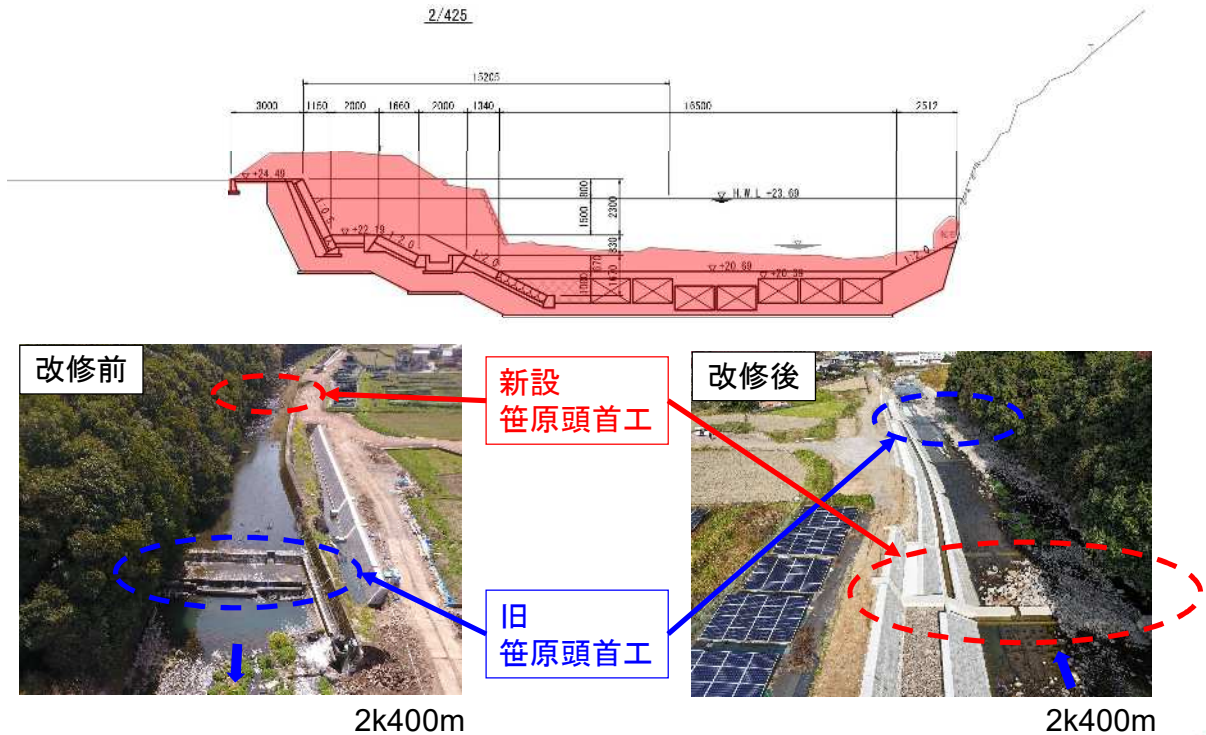
	R4年度迄	R5年度迄	R6年度以降
事業費(億円)	59.6	60.7	21.3
進捗率(%)	73	74	—
用地進捗率(%)	59	59	—

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

5

整備の状況

○標準横断図(2k400m)



Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

6

環境に配慮した整備の実施

改修前(旧山下頭首工)



改修後(新山下頭首工)



○河川改修効果

- 河川断面を狭めていた固定堰については、位置を上流へ移動し堰を統合し改築した。
- 下流側を緩傾斜(スロープ化)とすることで魚類等の上下流移動に配慮した。

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

7

過去の被害

浜川流域では昭和37年7月豪雨、昭和51年9月豪雨及び平成2年7月豪雨などにより、床上・床下浸水などの被害を受けました。近年では平成11年 台風18号ではあと30cmで越水する状況となり、平成24年は高潮による浸水が発生しました。

昭和51年9月洪水による藤ノ瀬橋の流失
(県道奥山鹿島線) 出典:「鹿島市災害誌」



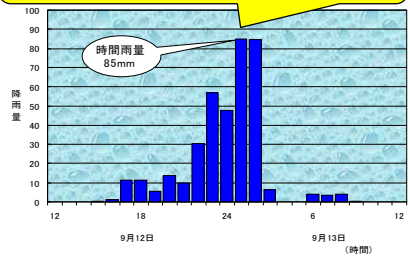
昭和57年出水状況
(鹿島市浜町地内)



昭和60年高潮による浸水状況
(鹿島市浜町地内)



昭和51年9月洪水では平谷(県)の雨量観測所で時間雨量最大85mmの降雨を記録



平成11年 台風18号
あと30cmで越水する状況 (鹿島市浜町)

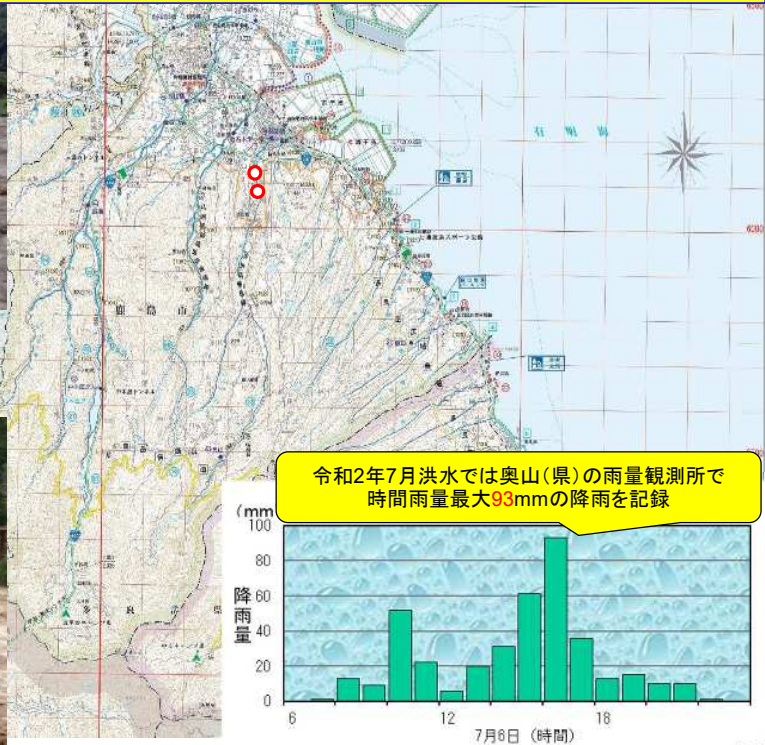


平成24年 台風16号
高潮による浸水発生 (鹿島市浜町)



近年の被害

直近の被害としては、令和2年7月豪雨において床上浸水4戸、床下浸水34戸、浸水面積19haなどの被害を受けました。



事業を巡る社会情勢等の変化

○地域の状況

- 近年の洪水により、浸水被害が発生している。
- 近年の洪水により、氾濫危険水位を超過しており、住民避難が生じている。
- 流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性が依然として高い。

費用対効果の要因の変化

B/Cは1.0を上回っている

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年間の総便益額

- | | |
|---------------------------|------------|
| • 一般資産被害額 | (家屋, 事業所等) |
| • 農作物被害 | (水稻, 畑作物等) |
| • 公共土木施設等災害被害 | (道路, 橋梁等) |
| • 間接被害(事業所の営業停止被害, 清掃費用等) | |
| • 残存価値 | |

○総費用C: 22,607百万円

○総便益B: 373,685百万円

●費用対効果 $B/C = 373,685 / 22,607 \div 16.5$

コスト縮減や代替案等の可能性

○コスト縮減

- ・ 護床工の間詰コンクリート工に現地発生石材や近隣他工事で発生した石材を使用する。また、掘削土を埋戻に流用するなど建設副産物の有効活用を図り発生量を抑制する。
- ・ 護岸の裏込材に再生クラッシャーランを使うなど再生材を積極的に使用する。

○代替案の検討

- ・ 特になし

対応方針(事業課案)

- 浜川は、鹿島市を流下し、有明海に注ぐ河川であり、付近には国道207号があり、河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足による浸水被害がたびたび発生している。本事業は、河道改修を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。
- 費用対効果についても、 $B/C=1.0$ 以上(16.5)が確保されている事業である。
- 事業進捗率は、事業費ベースで約73%[59.6億/82.0億](R4末時点)であり、用地進捗率は約59%となっている。
- 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化はなく、事業の必要性は依然として高い。
- よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。

令和５年度公共事業再評価諮問箇所「継続・中止」理由書等

(課名：河川砂防課)

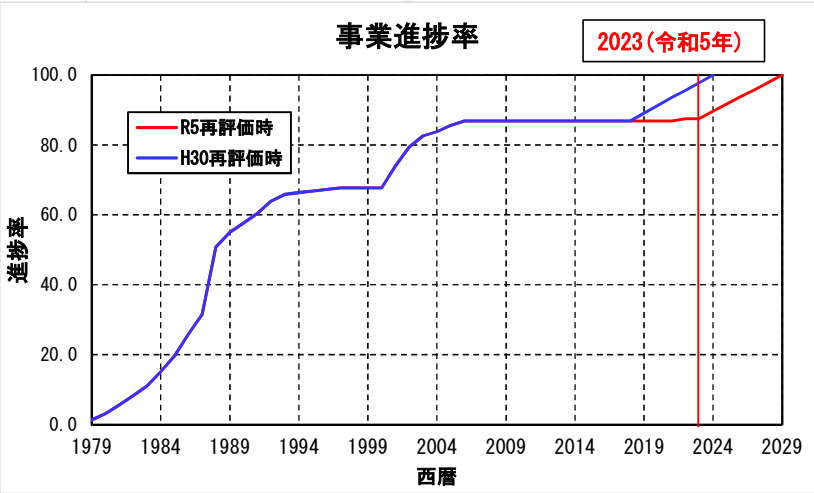
事業名 (路河川等名)	河川整備交付金事業（総合流域防災事業） (川添川)
継続中止理由	○ 川添川は、武雄市東部を流下し六角川へ流入する河川で、付近には国道 34 号があり、上流には住宅地もあることから河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび浸水被害が発生している。本事業は、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。 ○ 費用対効果についても、$B/C=1.0$ 以上 (1.8) が確保されている事業である。 ○ 事業進捗率は、事業費ベースで約 88% [19.5 億/22.3 億] (R4 末時点) であり、用地進捗率は約 93%となっている。 ○ 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性は依然として高い。 ○ よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。
B/C の算出方法	総便益 (B) は河川改修による年平均被害軽減額を対象期間分合計したもの。 総費用 (C) は治水施設の建設費と維持管理費を対象期間分合計したもの。 (※対象期間＝整備期間＋施設完成後 50 年間。) 総便益額 (現在価値化した総便益) $B = 18,991$ 百万円 総費用額 (現在価値化した総費用) $C = 10,777$ 百万円 $B/C = 18,991 / 10,777 = 1.8$
備考	

令和 5 年度再評価対象箇所

(再評価実施後、一定期間（5年）が経過した時点で継続中の事業又は未着工の事業）

(対象：平成 3 0 年度再評価実施箇所)

番 号	項 目	事 業 名 (路・河川名等)	事 業 目 的	事 業 概 要	事業の進捗状況	事業を巡る社会経済 情 勢 等 の 変 化	費用対効果 の要因の変化	コスト縮減や代替案 等 の 可 能 性	再評価理由	対応方針 (事業継続)
	再評価 時点 H30	川添川 河川整備交付金 事業 (総合流域防災 事業)	流下断面の確保を行い、治 水安全度を向上し、流域の 浸水被害の軽減を図る。 計画流量 100m³/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=22.3億円 工 期：S54～H36 (R6) 改 修 延 長：L=1,600m 事業内容：掘削・護岸、 樋管8基、橋梁7基、 堰3基	国道34号より下流につ いては完了している。 現在、国道橋改築に関 する調整を進めてい る。 丁后橋他5基完成 堰2基完成 (H29末進捗率 87%) (年平均進捗率 2.2%)	(過去の災害実績) H2.7 浸水戸数 593戸 浸水面積 110ha (地域の状況) 周辺に国道34号バイパス(国事 業)が開通した。	最新のマニュアル (H17.4)に基づ き、費用対効果を 算出した。 現在(B/C)=1.2	・再生材の積極的 利用 ・建設副産物の有 効利用	再評価実施後 5 年が経過	平成2年洪水被 害を軽減する ため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するために、当 事業の継続が 必要である。
	現時点 R5	川添川 河川整備交付金 事業 (総合流域防災 事業)	流下断面の確保を行い、治 水安全度を向上し、流域の 浸水被害の軽減を図る。 計画流量 100m³/s 計画治水安全度 1/50	全体事業費：C=22.3億円 工 期：S54～R11 改 修 延 長：L=1,600m 事業内容：掘削・護岸、 樋管8基、橋梁7基、 堰3基	国道34号より下流につ いては完了している。 現在、国道橋改築に関 する調整を進めてい る。 丁后橋他5基完成 堰2基完成 (R4末進捗率 88%) (年平均進捗率 2.0%)	(過去の災害実績) R1 浸水戸数 床上91戸 床下14戸 R3 浸水戸数 床上97戸 床下37戸 (地域の状況) 流域内の家屋や事業所等の状 況は、ほぼ変化はない。	最新のマニュアル (R2.4)に基づき、 費用対効果を算 出した。 現在(B/C)=1.8	同上	再評価実施後 5 年が経過	平成2年洪水被 害を軽減する ため、流路是 正、狭窄部解消 を行い、治水安 全度を向上し、 地域住民の安 心・安全を確保 するために、当 事業の継続が 必要である。
	理由等			事業を進めるにあたり 地元との合意形成に時 間を要していること による事業期間の延長。			マニュアル更新 に伴い、公共土木 施設被害額でB が増大し、費用対 効果の増となっ た。			



事業目的

○流下能力不足による浸水被害が発生

- 平成2年7月洪水 浸水戸数 125戸(床上)
468戸(床下)
浸水面積 110ha

○浸水被害の軽減を図る

流下断面の確保(河道拡幅、築堤及び横断構造物改築等)を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図る。

- 計画流量 : 100m³/s
- 計画治水安全度: 1/50

事業概要 [川添川工区]

□ 全体事業費: 22.3億円

□ 事業期間: S54~R11

□ 改修延長: 1,600m

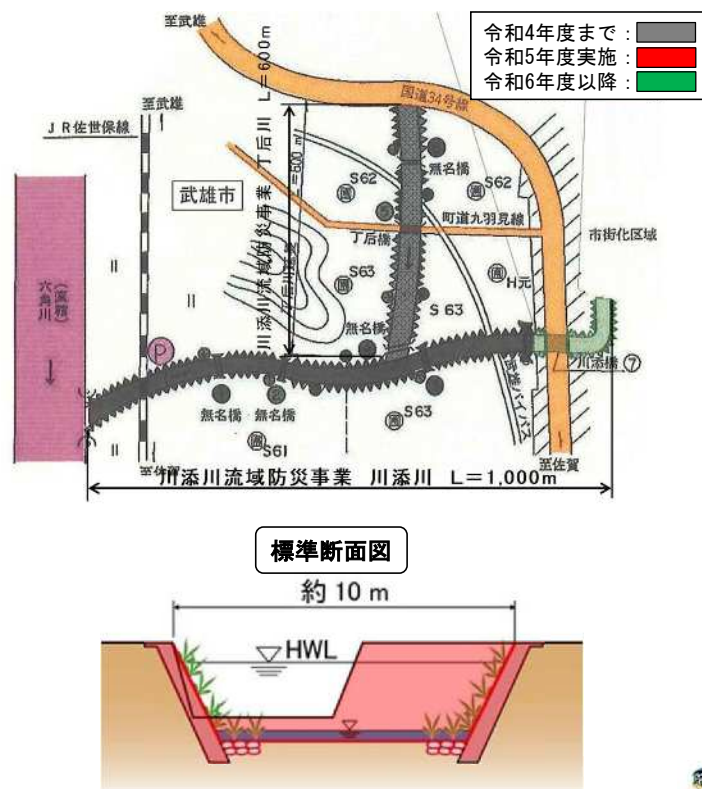
□ 計画流量: 100m³/s

□ 計画治水安全度: 1/50

□ 実施内容

- ◆ 掘削・護岸 L=1,600m
- ◆ 橋梁 N=7橋
- ◆ 堰 N=3基
- ◆ 樋管 N=8基

□ 費用対効果: 1.8



事業概要

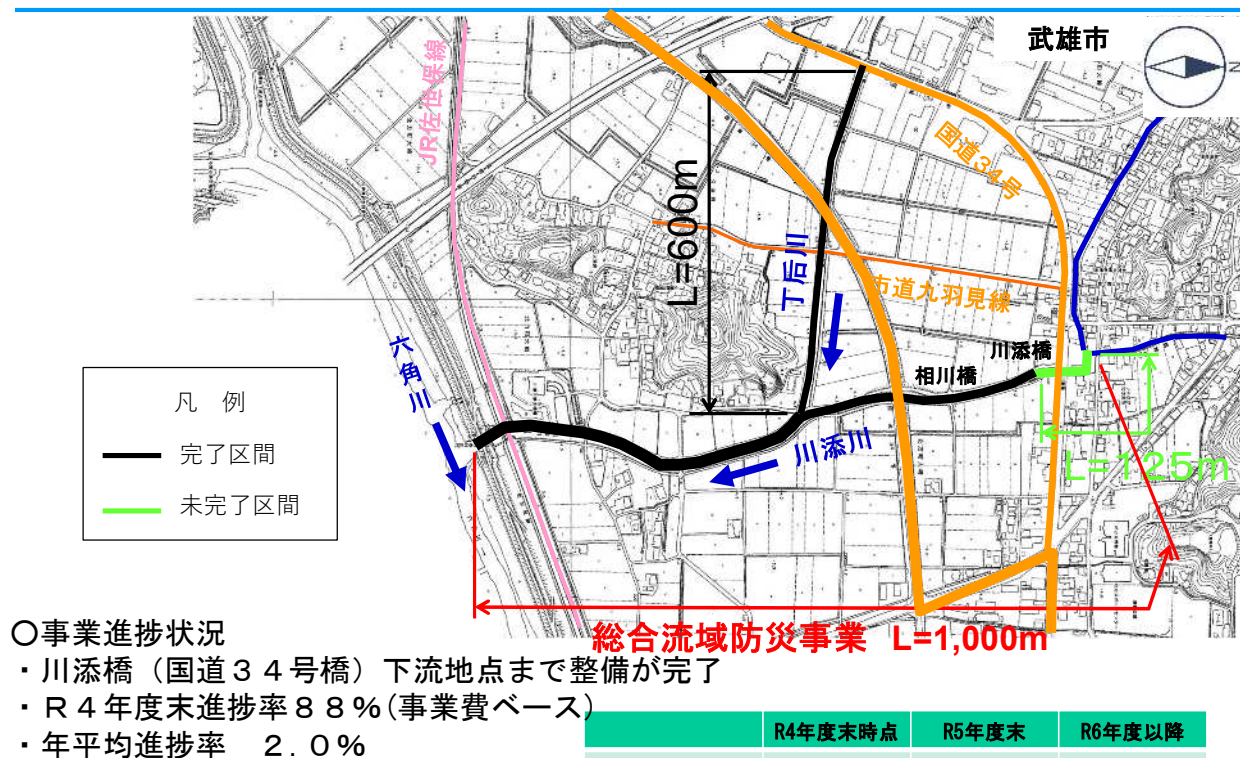
		前回再評価時 (H30)	今回再評価時 (R5)
全体事業費		22.3 億円	22.3 億円
事業期間		S54～H36(R6)	S54～R11
改修延長		1,600m	1,600m
計画流量		100m ³ /s	100m ³ /s
計画治水安全度		1/50	1/50
事業内容	掘削・築堤・護岸等	1,600m	1,600m
	橋梁	7橋	7橋
	堰	3基	3基
	水門	0基	0基
	樋管	8基	8基
費用対効果		1.2	1.8

事業期間の見直し理由

○事業期間の延長

- 事業を進めるにあたり地元との合意形成に時間を要していることによる事業期間の延長

事業進捗状況

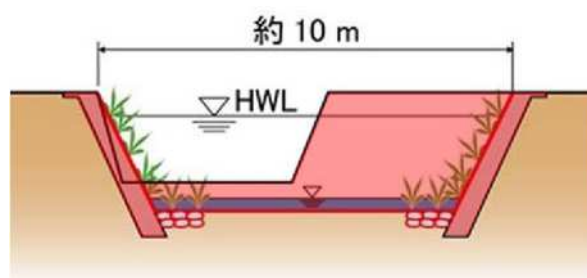


Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



整備の状況

○横断面図



川添橋下流
1k050m

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.



環境に配慮した整備の実施



○河川改修効果

- 現況のブロック積護岸の河道に対して、寄せ石工を施工することで、水際の植生が活着し空間の連続性が創出されている。
- 現況の自然環境を活かし、水際部の植生を存置する。

過去の被害

平成2年7月 梅雨前線豪雨 川添川
連続雨量716mm 最大日雨量453mm 時間最大雨量75mm



近年の被害

令和元年8月豪雨・令和3年8月豪雨 川添川



床上浸水91戸
床下浸水14戸

国道34号(旧北方町役場前横断歩道橋より撮影)

〔令和元年8月〕
連続雨量 432mm
最大日雨量 284mm
時間最大雨量85mm



床上浸水97戸
床下浸水37戸

国道34号(旧北方町役場前横断歩道橋より撮影)

〔令和3年8月〕
連続雨量 947mm
最大日雨量 368mm
時間最大雨量53mm

Copyright © 2023 Saga Prefecture. All Rights Reserved.

10



事業を巡る社会情勢等の変化

○地域の状況

- 近年の洪水により、浸水被害が発生している。
- 近年の洪水により、氾濫危険水位を超過しており、住民避難が生じている。
- 流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性が依然として高い。
- 特定都市河川に指定されており、地域住民の治水対策に対する関心が高い。



費用対効果の要因の変化

B/Cは1.0を上回っている

総費用額C: 治水施設の整備及び施設完成後50年間の維持管理に要する総費用

総便益額B: 治水施設整備によってもたらされる施設完成後50年間の総便益額

- ・ 一般資産被害額 (家屋, 事業所等)
- ・ 農作物被害 (水稻, 畑作物等)
- ・ 公共土木施設等災害被害 (道路, 橋梁等)
- ・ 間接被害 (事業所の営業停止被害, 清掃費用等)
- ・ 残存価値

○総費用C: 10,777百万円

○総便益B: 18,991百万円

●費用対効果 $B/C = 18,991 / 10,777 \div 1.8$

コスト縮減や代替案等の可能性

○コスト縮減

- ・ 寄せ石工に現地発生石材や近隣他工事で発生した石材を使用する。また、掘削土を埋戻に流用するなど建設副産物の有効活用を図り発生量を抑制する。
- ・ 護岸の裏込材に再生クラッシャーランを使うなど再生材を積極的に使用する。

○代替案の検討

- ・ 特になし

対応方針(事業課案)

- 川添川は、武雄市東部を流下し六角川へ流入する河川で、付近には国道34号があり、上流には住宅地もあることから河川が氾濫した場合の浸水被害の影響も大きく、流下能力不足が原因でたびたび浸水被害が発生している。本事業は、流路是正、狭窄部解消を行い、治水安全度を向上し、流域の浸水被害の軽減を図ることを目的としている。
- 費用対効果についても、 $B/C=1.0$ 以上(1.8)が確保されている事業である。
- 事業進捗率は、事業費ベースで約88%[19.5億/22.3億](R4末時点)であり、用地進捗率は約93%となっている。
- 地域住民の当事業に対する期待は強く、早期完成を望まれている。改修事業に着手した現在においても、近年の洪水により浸水被害が発生しており、また、流域内の家屋や事業所等の状況は、ほぼ変化なく、事業の必要性は依然として高い。
- よって、当該事業の完成に向けて、事業費の予算確保に努めながら、事業を継続することとしたい。